



碧南市民病院 臨床指標 2013

Hekinan Municipal Clinical Indicator 2013



目次

臨床指標の見方	1
○病院全体の指標	2
1. 平均在院日数(一般病棟のみ)	3
2. 病床稼働率	
3. 外来/入院比率	4
4. クリニカルパス適用率	
5. 予期しない6週間以内の再入院率	5
6. 退院調整N.sまたはMSWIによる転院・転所患者割合	
7. 2週間以内の退科サマリー作成率	6
8. 死亡退院患者率	
○死因究明に関する指標	7
9. 死亡退院患者剖検率	8
10. 死亡退院患者死亡時画像病理診断(AI:Autopsy imaging)実施率	
○看護に関する指標	9
11. 入院中の新規褥瘡発生率	10
12. 入院患者の転倒・転落発生率	
○悪性新生物の指標	11
13. 胃がん手術:平均術後在院日数	12
14. 胃がん患者に対する手術時の腹水細胞診の施行率	
15. 大腸がん手術:平均術後在院日数	13
16. StageⅢA~ⅢCの大腸がん患者における補助化学療法実施率	
17. 乳がん手術:乳房温存手術実施患者 手術時Stage別(UICC)割合	14
18. 乳がん患者に対するホルモン受容体あるいはHER-2の検索の施行率	
19. 肺がん手術患者に対する治療前の病理診断の施行率	15
○循環器疾患の指標	16
20. 急性心筋梗塞:平均在院日数	17
21. 急性心筋梗塞:受付から緊急PCIまでの平均所要時間(単位 分)	
22. 急性心筋梗塞患者における入院当日若しくは翌日のアスピリン投与率	18
23. 急性心筋梗塞患者に対する退院時のスタチン処方率	
24. PCI後の24時間以内の死亡率	19

目次

○脳血管疾患の指標	20
25. 脳血管障害:平均在院日数	21
26. 脳梗塞患者における早期リハビリ開始率	
27. 脳梗塞患者における初期少量アスピリン投与率	22
28. 破裂脳動脈瘤患者に対する開頭による外科治療あるいは血管内治療の施行率	
29. 急性期開頭術施行患者の死亡退院率	23
30. 救急搬送後、入院となった脳血管疾患患者における頭部CT検査施行までに要した時間(単位:分)	
○周産期、女性生殖器疾患手術の指標	24
31. 出産予定婦の帝王切開率	25
32. 単純子宮全摘術が施行された患者に対する輸血発生率	
33. 卵巣腫瘍患者に対する腹腔鏡下手術の施行率	26
○整形外科手術の指標	27
34. 大腿骨頭置換術:平均術後在院日数	28
35. 人工関節置換術,人工骨頭挿入術における手術部位感染予防のための抗菌薬の3日以内および7日以内の中止率	29
○眼科手術の指標	30
36-1. 白内障手術:平均在院日数(両眼手術の場合)	31
36-2. 白内障手術:平均在院日数(片眼手術の場合)	
○消化器疾患の指標	32
37. 胆嚢摘出術中の腹腔鏡下手術の割合	33
38. 急性膵炎患者に対する早期(入院2日以内)のCT施行率	
○呼吸器疾患の指標	34
39-1. 肺炎:65歳以上患者割合(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)	35
39-2. 肺炎:65歳以上患者割合(嚥下性肺炎 J69)	
39-3. 肺炎:65歳以上患者割合(間質性肺炎 J84)	36
39-4. 肺炎:65歳以上患者割合(その他の肺炎 J18)	
40-1. 肺炎:平均在院日数(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)	37
40-2. 肺炎:平均在院日数(嚥下性肺炎 J69)	
40-3. 肺炎:平均在院日数(間質性肺炎 J84)	38
40-4. 肺炎:平均在院日数(その他の肺炎 J18)	
41-1. 肺炎:死亡率(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)	39
41-2. 肺炎:死亡率(嚥下性肺炎 J69)	
41-3. 肺炎:死亡率(間質性肺炎 J84)	40

目次

41-4. 肺炎:死亡率(その他の肺炎 J18)	
42. 気管支喘息患者に対する吸入ステロイド剤の投与率	41
43. 間質性肺炎患者に対する血清マーカー検査(KL-6, SP-D, SP-A)の施行率	
○尿路系疾患、男性生殖器疾患手術の指標	42
44. 急性腎盂腎炎患者に対する尿培養の施行率	43
45. 経尿道的前立腺切除術が施行された患者に対する術後3日以内の抗菌薬注射薬の中止率	
○胃ろう造設の指標	44
46-1. 胃ろう造設術:転帰別平均術後在院日数(転院)	45
46-2. 胃ろう造設術:転帰別平均術後在院日数(退院)	
46-3. 胃ろう造設術:転帰別平均術後在院日数(死亡)	46
47. 転帰別胃ろう造設率	
48. 年齢区分別胃ろう造設率	47
○地域連携に関する指標	48
49. 紹介率、逆紹介率	49

● 臨床指標の見方

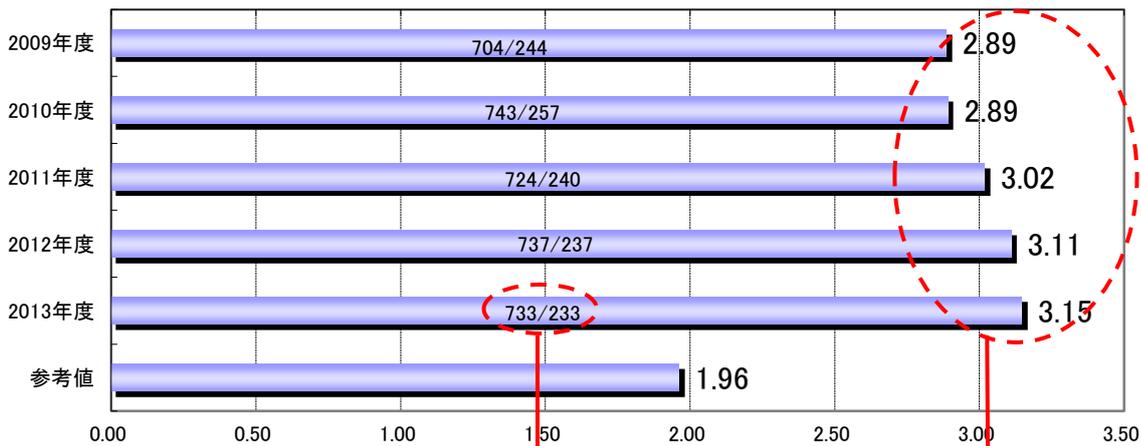
各臨床指標の数値を年度ごとにまとめ、数値をグラフ化して表示しています。
棒グラフの中もしくは下に示した数字は、指標値の分子／分母になります。

集計期間については以下の通りです。

- 2009年度 : 2009/4/1～2010/3/31 退院患者が対象
- 2010年度 : 2010/4/1～2011/3/31 退院患者が対象
- 2011年度 : 2011/4/1～2012/3/31 退院患者が対象
- 2012年度 : 2012/4/1～2013/3/31 退院患者が対象
- 2013年度 : 2013/4/1～2014/3/31 退院患者が対象

例)

3. 外来／入院比率

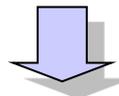


分子／分母

各年度の指標値

【分子】 集計期間内の1日平均外来延べ患者数

【分母】 集計期間内の1日平均入院患者数



※分子(上段)、分母(下段)にて定義を表記しています。

○病院全体の指標

1. 平均在院日数(一般病棟のみ)

2. 病床稼働率

3. 外来／入院比率

4. クリニカルパス適用率

5. 予期しない6週間以内の再入院率

6. 退院調整N.sまたはMSWIによる転院・転所患者割合

7. 2週間以内の退科サマリー作成率

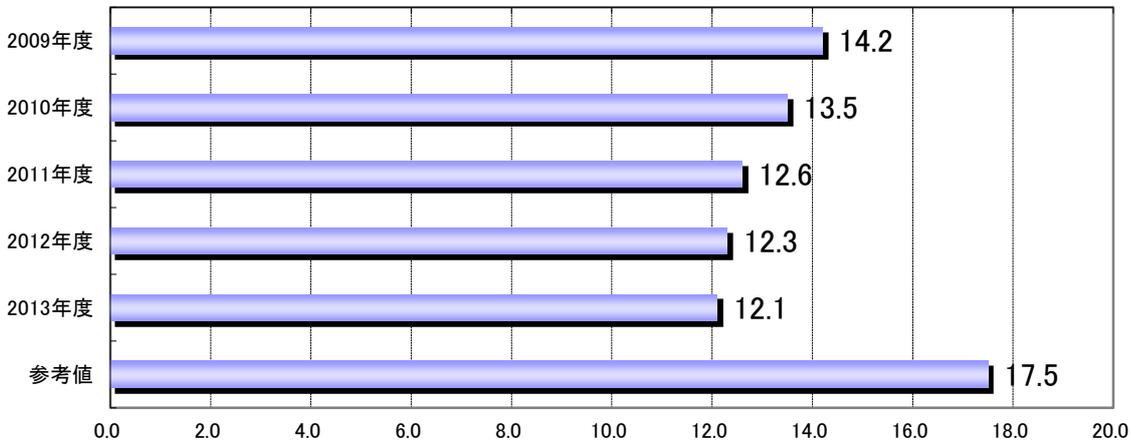
8. 死亡退院患者率

1. 平均在院日数(一般病棟のみ)

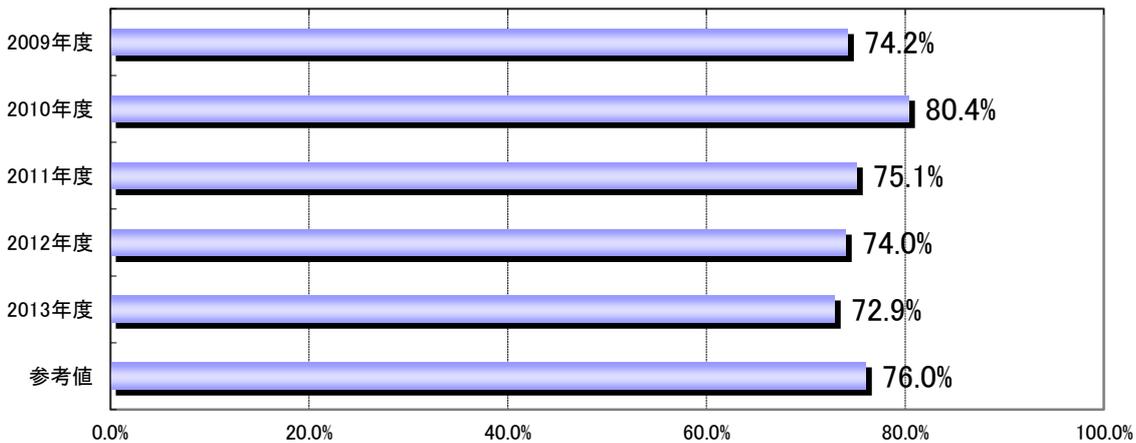
2. 病床稼働率

平均在院日数は病床利用状況の指標であり、病床利用が定常状態であることを前提として、在院患者が全て入れ替わるまでの期間を表したものです。また、保健医療期間の施設基準の1つである「一般病棟入院基本料」の枠組みにおいて、7:1や10:1という看護師配置数のほかに、平均在院日数も一般病棟における医療の質を保証する指標となっています。更に、平均在院日数と病床稼働率は、当該医療機関における経営の質を示す指標のひとつとしても活用されています。

1. 平均在院日数(一般病棟のみ)



2. 病床稼働率



○算出式: 平均在院日数(一般病棟のみ)

【分子】 集計期間内の入院患者延数

【分母】 集計期間内の(新入院患者数+退院患者)×1/2

参考値 : 厚生労働省 平成24年病院報告(一般病床)

○算出式: 病床稼働率

【分子】 集計期間内の入院患者延数

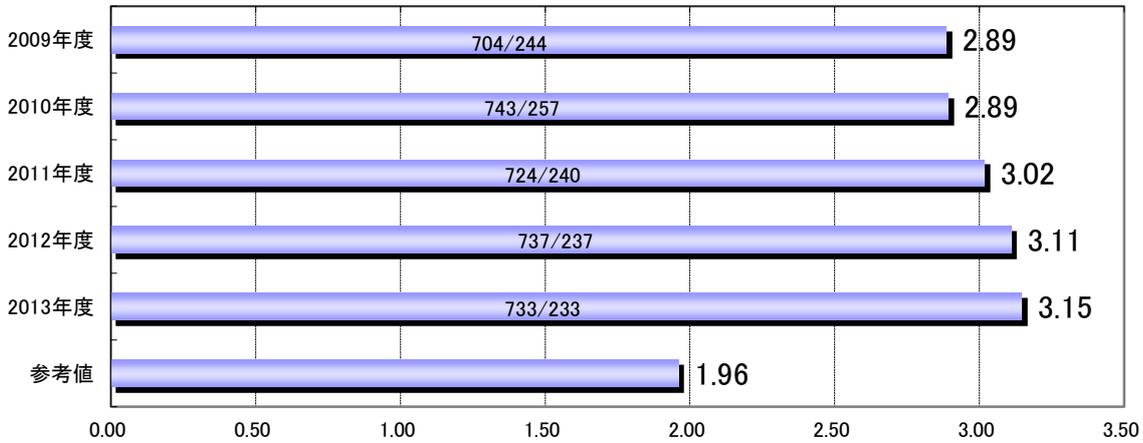
【分母】 集計期間内の実働病床数×集計期間内の診療日数

参考値 : 厚生労働省 平成24年病院報告(一般病床)

3. 外来／入院比率

急性期病院においては、コストパフォーマンスの面から、外来診療を縮小し、入院診療の比重を重くしようとする動きがあります。しかし、DPC／PDPS制度の影響もあり、外来診療でも化学療法等の集中度の高い診療もあり、検査を外来に移行する動きもあります。診療のパフォーマンスを把握する上で、重要な指標といえます。

3. 外来／入院比率



○算出式

【分子】 集計期間内の1日平均外来延べ患者数

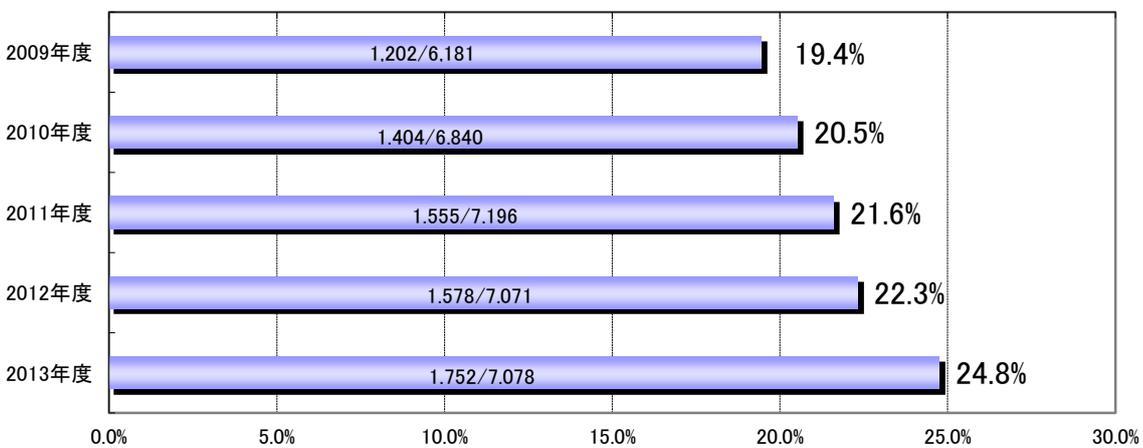
【分母】 集計期間内の1日平均入院患者数

参考値：厚生労働省 平成23年度病院経営管理指標 自治体病院数値

4. クリニカルパス適用率

医療の質は、標準医療への準拠の程度により測定されるといわれています。標準化された医療が患者、医療従事者にどれだけ提供されているかを示す指標と言えます。

4. クリニカルパス適用率



○算出式

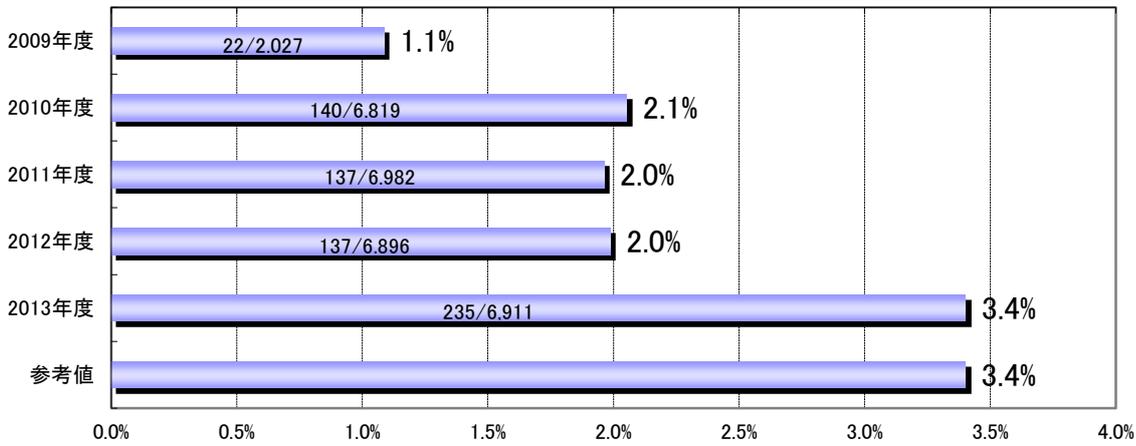
【分子】 分母対象例のうちクリニカルパスを使用した患者数

【分母】 集計期間内に退科した患者数

5. 予期しない6週間以内の再入院率

効果的な医療提供を目指していく上で、粗診粗療にならないためにも、再入院率を把握していくことは重要です。早期退院を強いると、退院後の緊急再入院率が上がります。その背景としては、初回入院時の治療が不十分であったこと、回復が不完全な状態で患者さんに早期退院を強いたこと、などの要因が考えられます。

5. 予期しない6週間以内の再入院率



○算出式

【分子】 分母対象例のうち退院後6週間以内に予期しない再入院をした患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者数

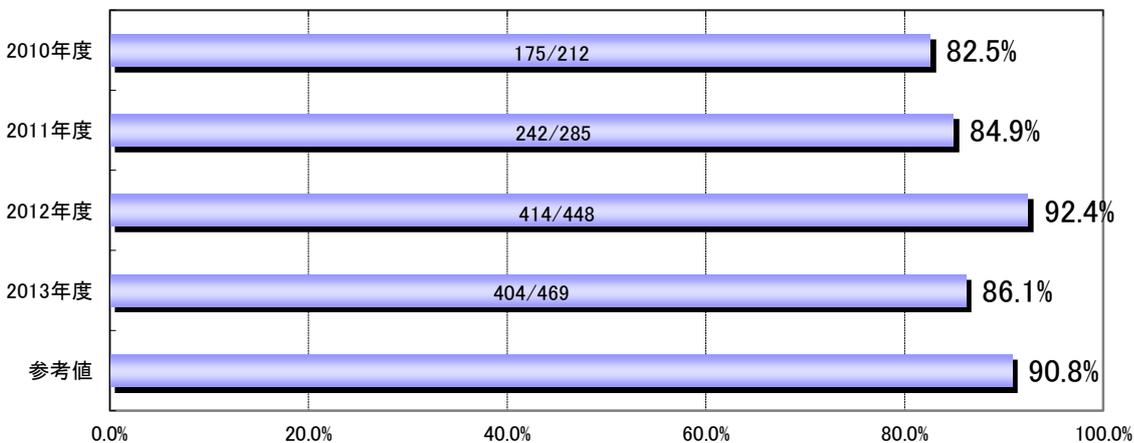
参考値：厚生労働省 再入院に係る再調査(平成24年度DPC参加病院数値)

※2009年度の指標値の集計期間は2009年7月～10月退院患者分である

6. 退院調整N.sまたはMSWによる転院・転所患者割合

退院調整N.sまたはMSW(メディカルソーシャルワーカー)が患者と家族の気持ち、置かれている状況を聞き、病状と照らし合わせながら転院を進めていくことは時間がかかるため、不利益になることもあります。しかし、患者と家族の立場で考えた場合、転院を受け入れるには退院調整N.s、MSWのサポートが必要となります。患者と家族のその後の闘病生活を見る指標のひとつであると考えます。

6. 退院調整N.sまたはMSWによる転院・転所患者の割合



○算出式

【分子】 退院調整N.sまたはMSW関わった転院・転所患者数

【分母】 全転院・転所患者数

参考値：トヨタ記念病院:臨床指標 医療スタッフに関する指標「医療ソーシャルワーカー:転院・転所患者へのMSW介入率 2013年度数値」

○参考値算出式

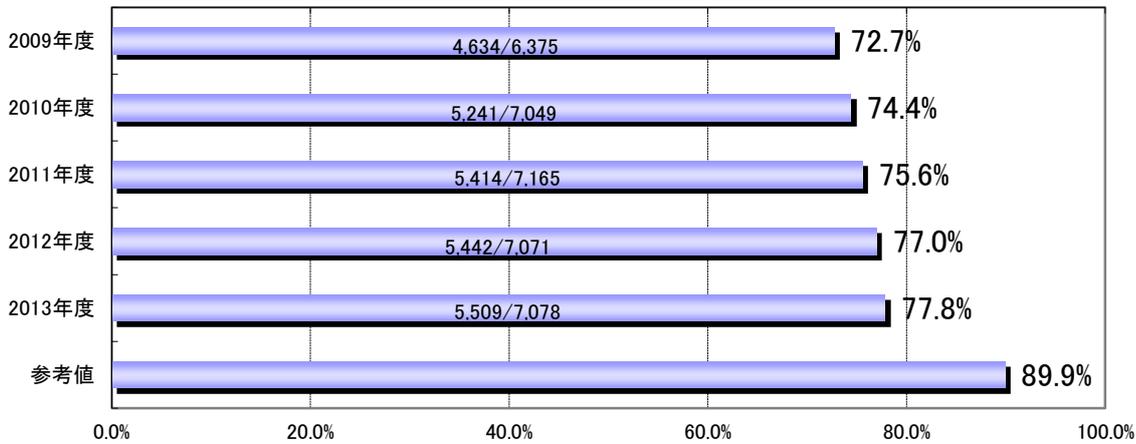
【分子】 MSW関わった転院・転所患者数

【分母】 回復期リハビリテーション病院を除く転院・転所患者数

7. 2週間以内の退科サマリー作成率

退科サマリーは、患者の病歴、入院時の身体所見、検査所見、入院経過など、入院中に受けた医療行為を要約したものです。「公益財団法人 日本医療機能評価機構」が行う病院機能評価では、患者退院後2週間以内に退院時サマリーが原則100%作成されていることが求められています。(当院は退科サマリー作成率で掲載しています)

7. 2週間以内の退科サマリー作成率



○算出式

【分子】 分母のうち、2週間以内に退科サマリーが作成された患者数

【分母】 全退科患者数

参考値 : 病院機能評価データブック 平成24年度

8. 死亡退院患者率

どの病院でも、死亡退院患者率を把握できますが、病院全体での医療アウトカムを客観的に把握するシステムは存在しません。医療施設の特徴(職員数、病床数、救命救急センターや集中治療室、緩和ケア病棟の有無、平均在院日数、地域の特性など)、入院患者のプロフィール(年齢、性別、疾患の種類と重症度など)が異なるため、この死亡退院患者率から直接医療の質を比較することは適切ではありません。

8. 死亡退院患者率



○算出式

【分子】 死亡退院患者数

【分母】 全退院患者数

参考値 : 病院機能評価データブック 平成24年度(一般病院)

○死因究明に関する指標

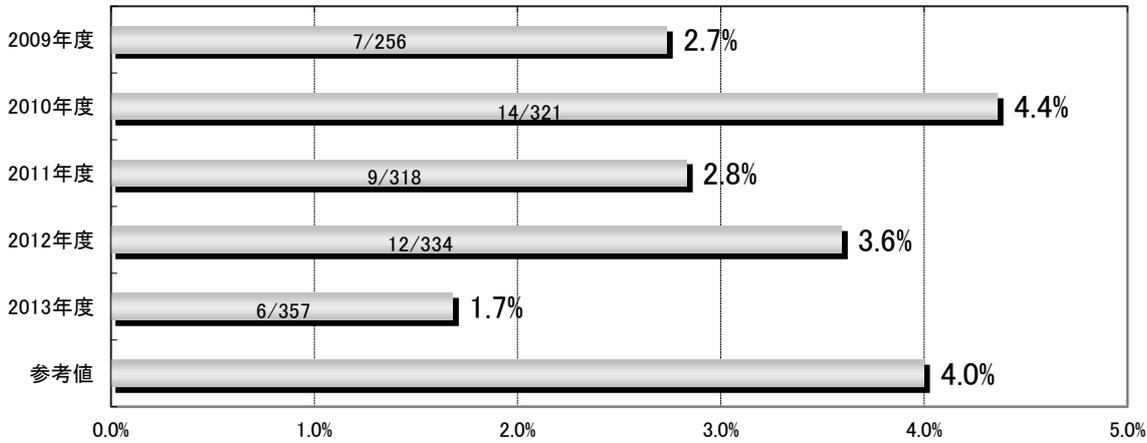
9. 死亡退院患者剖検率

10. 死亡退院患者死亡時画像病理診断(AI:Autopsy imaging)実施率

9. 死亡退院患者剖検率

剖検の主な目的は、死因や病気の成り立ち、病態を解明することであり、全身あるいは一部の臓器が採取され、肉眼的・顕微鏡的検査により最終診断が下されます。しかし、剖検率は全国的に減少しています。その理由として、画像診断などの検査の進歩、複雑な死因究明に関する制度、遺族の要望、剖検にかかる費用等が考えられます。しかし、剖検によって、新たな事実が発見されることも少なくなく、剖検結果はその後の診療に役立つため、剖検率は医療の質を反映しているとも言われます。

9. 死亡退院患者剖検率



○算出式

【分子】 分母対象例のうち剖検を実施した患者数

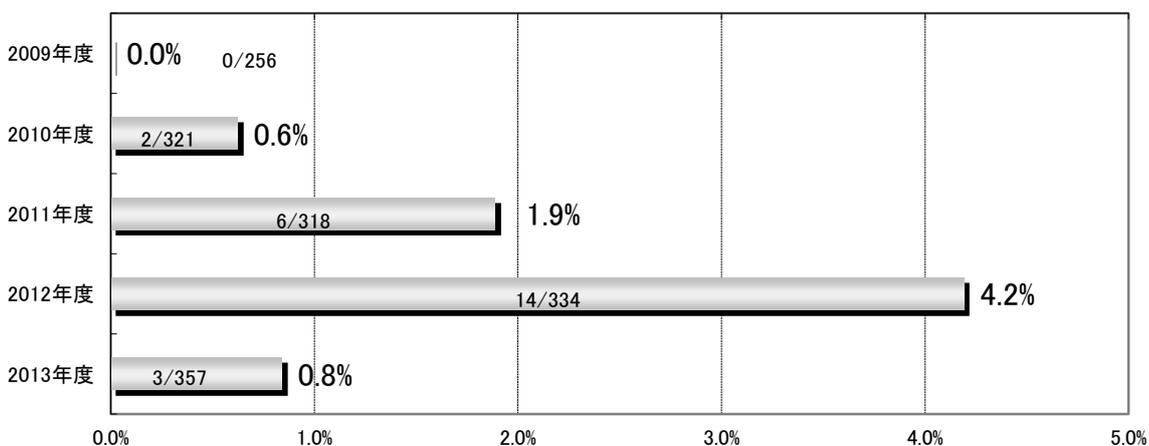
【分母】 集計期間内に死亡退院した患者数

参考値 : 病院機能評価データブック 平成24年度

10. 死亡退院患者死亡時画像病理診断 (AI: Autopsy imaging) 実施率

日本における死因究明制度の不備が社会的に注目を集めるようになり、このような社会背景の変化によって、より正確な死因の判断が求められるようになってきています。死因究明の手法の一つとして、遺体を傷つけることなく実施可能な死亡時画像病理診断 (AI=Autopsy imaging) の活用に対する関心が高まっています。死因を究明することは、亡くなった理由を正確に知りたいという遺族の思いに応えるだけでなく、医学の発展や公衆衛生の向上、さらには、犯罪死の見逃し防止等の観点からも重要です。

10. 死亡退院患者死亡時画像病理診断 (AI: Autopsy imaging) 実施率



○算出式

【分子】 分母対象例のうち死亡時画像病理診断を実施した患者数

【分母】 集計期間内に死亡退院した患者数

○看護に関する指標

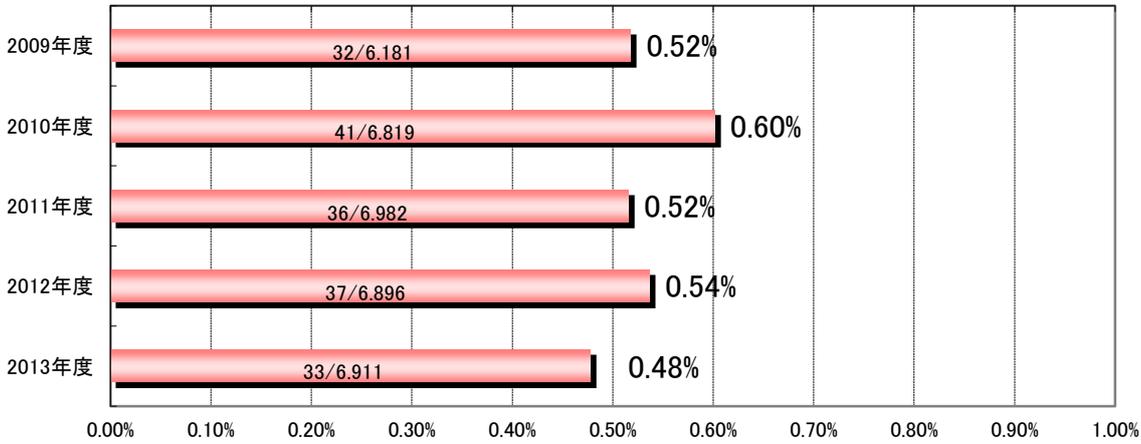
11. 入院中の新規褥瘡発生率

12. 入院患者の転倒・転落発生率

11. 入院中の新規褥瘡発生率

褥瘡の発生要因として栄養不良、全身状態悪化、長時間の圧迫、麻痺などがあります。褥瘡は感染を招き、さらに身体の活力を低下させますので予防が必要です。さらに褥瘡の有無は介護、看護の質をはかるものさしと言われています。

11. 入院中の新規褥瘡発生率



○算出式

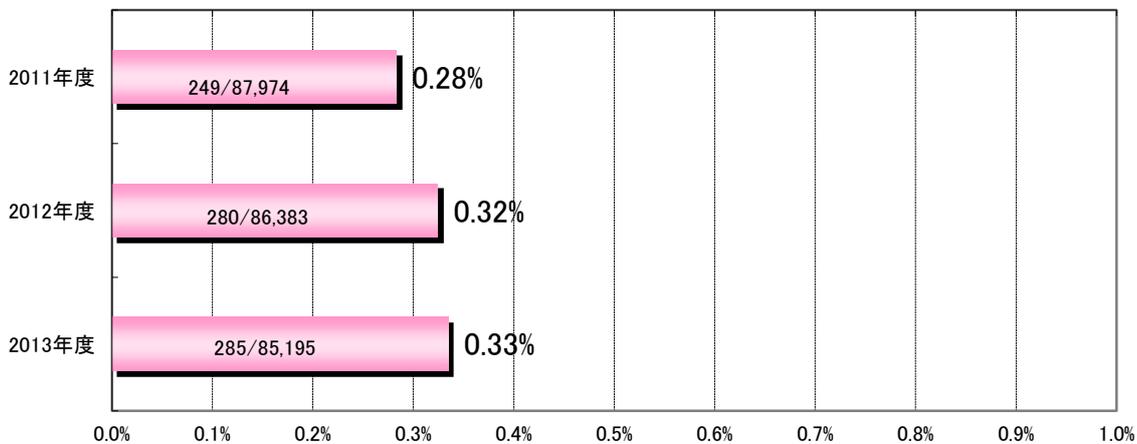
【分子】 分母対象例のうち入院期間中に褥瘡が発生した患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者数

12. 入院患者の転倒・転落発生率

患者の障害に至らなかった転倒・転落事例も報告して、転倒・転落の原因や要因について、分析、予防策を策定することは、傷害予防のため重要となります。また、患者の転倒・転落のリスクアセスメントを行って、対策を策定し、実施するといった日々のサイクルに加え、病院設備面の見直しも重要となります。転倒・転落の発生率を追跡することは、予防の取組みを効果的に行っているかの指標として重要です。

12. 入院患者の転倒・転落発生率



○算出式

【分子】 医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された入院中の転倒・転落件数

【分母】 入院延べ患者数

○悪性新生物の指標

- 13. 胃がん手術:平均術後在院日数

- 14. 胃がん患者に対する手術時の腹水細胞診の施行率

- 15. 大腸がん手術:平均術後在院日数

- 16. StageⅢA～ⅢCの大腸がん患者における補助化学療法実施率

- 17. 乳がん手術:乳房温存手術実施患者 手術時Stage別(UICC)割合

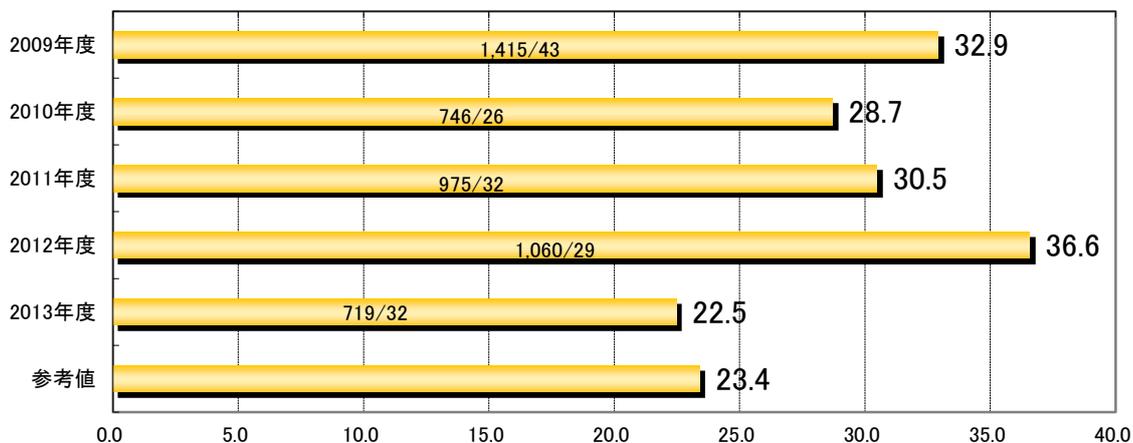
- 18. 乳がん患者に対するホルモン受容体あるいはHER-2の検索の施行率

- 19. 肺がん手術患者に対する治療前の病理診断の施行率

13. 胃がん手術:平均術後在院日数

胃がん手術患者に対して適切な医療やケアがなされているかどうかの総合的な指標といえます。また、この指標は入院前の説明を含めた手術治療の周術期経過を反映する指標とも言えます。

13. 胃がん手術:平均術後在院日数



○算出式

【分子】 分母対象例の術後在院日数(退院日－手術日)の総和

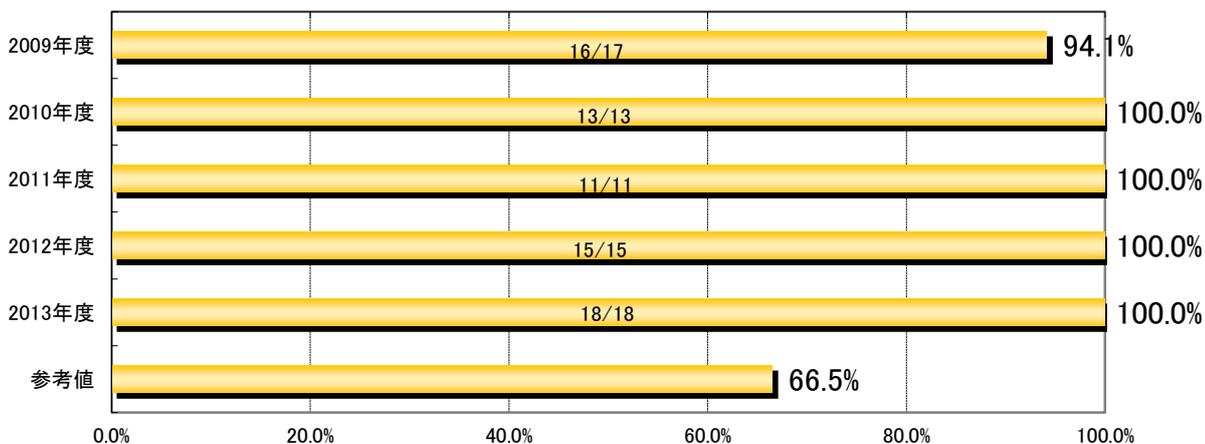
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「胃がん」を主病名として入院し、入院中に全身麻酔による手術治療(開腹もしくは腹腔鏡下による胃切除手術、胃部分切除術)を受けた患者数

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

14. 胃がん患者に対する手術時の腹水細胞診の施行率

腹水の細胞診により、腹水の中にがん細胞があるかを調べることができ、これにより、胃がんがどの程度進行しているか確認することができ、状態に応じた治療を検討することに利用されます。

14. 胃がん患者に対する手術時の腹水細胞診の施行率



○算出式

【分子】 分母のうち、胃の悪性腫瘍手術時に腹水細胞診が行われた患者数

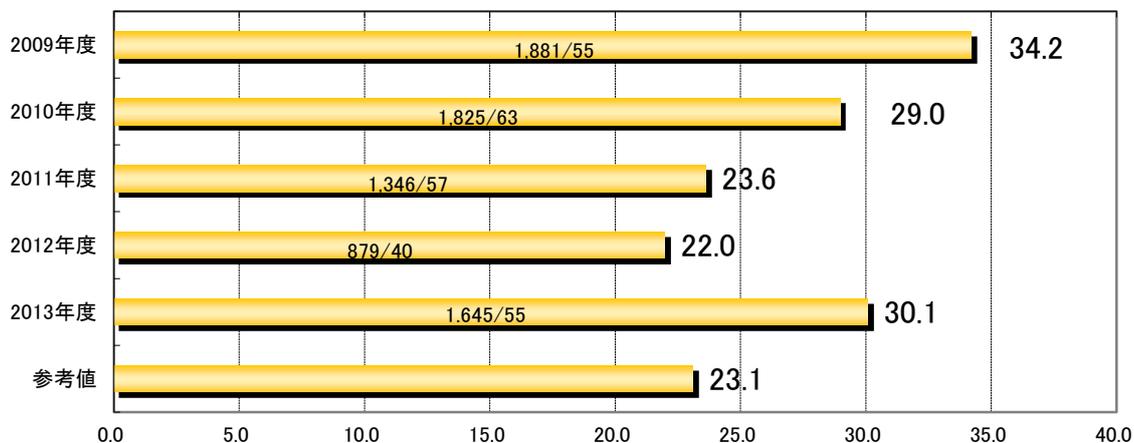
【分母】 胃の悪性腫瘍手術が施行された退院患者数

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2012 2012年度平均値

15. 大腸がん手術:平均術後在院日数

大腸がん手術患者に対して適切な医療やケアがなされているかどうかの総合的な指標といえます。また、この指標は入院前の説明を含めた手術治療の周術期経過を反映する指標とも言えます。

15. 大腸がん手術:平均術後在院日数



○算出式

【分子】 分母対象例の術後在院日数(退院日－手術日)の総和

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「大腸がん」を主病名として入院し、入院中に全身麻酔による手術治療(開腹もしくは腹腔鏡下による大腸切除手術、大腸部分切除術)を受けた患者数

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

16. StageⅢA～ⅢCの大腸がん患者における補助化学療法実施率

大腸癌治療ガイドラインでは、R0切除が行われたStageⅢの大腸癌は補助化学療法の対象と考えられています。可能な限り補助化学療法を行うことにより、再発を抑制し予後の改善を図ることが必要と考えられます。但し、ガイドラインでは、「主要臓器機能が保たれていること、performance status(PS)が0～1である、術後合併症から回復している、適切なインフォームド・コンセントに基づき患者から文書による同意が得られている、重篤な合併症(特に、腸閉塞、下痢、発熱)がない」が適応の原則となっています。

16. StageⅢA～ⅢCの大腸癌患者における補助化学療法実施率



○算出式

【分子】 分母のうち、1年以内に補助化学療法を受けた患者数

【分母】 StageⅢA～ⅢCの大腸癌患者数(がん登録されている者に限る)

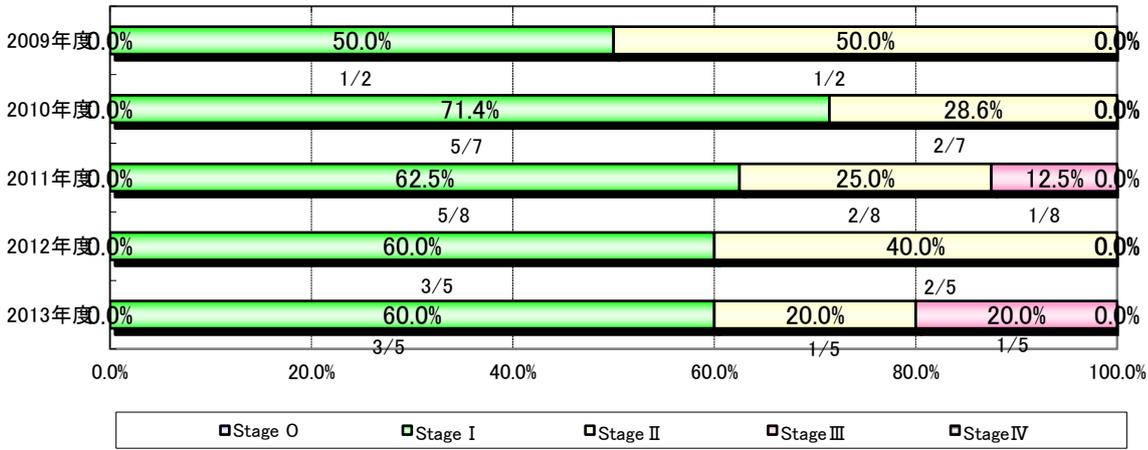
※分母除外

- ①補助療法をリファアーしない医学的理由(併存疾患、発症日が5年以上前、癌が転移した、医学的禁忌等)が記載されている患者
- ②補助化学療法をリファアーしない患者都合(患者拒否等)が記載されている患者
- ③補助化学療法をリファアーしないシステム要因(化学療法を施行できない治験に参加している等)が記載されている患者
- ④がん登録にStageが登録されていない患者

17. 乳がん手術:乳房温存手術実施患者 手術時Stage別(UICC)割合

日本の女性が最も多くかかるがんは乳がんであり、乳房温存療法(乳房温存手術、放射線療法)は早期乳がんに対する標準治療とされています。早期乳がんを発見することにより、乳房温存療法の比率が高くなります。

17. 乳がん手術:乳房温存手術実施患者 手術時Stage別(UICC)割合



○算出式

【分子】 分母対象例のうち手術時Stage別(TNM)の患者数

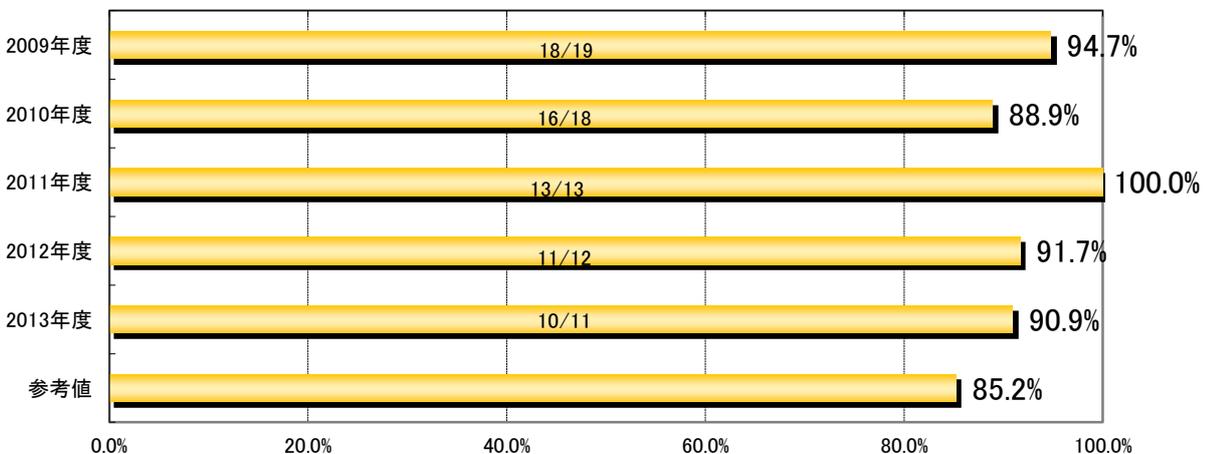
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち主病名が「乳がん」で乳房温存切除術を実施し退院した患者数

※Stage不明の患者は除く

18. 乳がん患者に対するホルモン受容体あるいはHER-2の検索の施行率

乳がん手術後の再発予防の補助療法として、ホルモン療法の選択肢があります。ホルモン療法による薬物療法においては女性ホルモン受容体を持っている場合に効果が期待できるため、事前にホルモン療法に反応性が高いがん細胞であるかどうかの検査を施行することが求められます。

18. 乳がん患者に対するホルモン受容体あるいはHER-2の検索の施行率



○算出式

【分子】 分母対象患者のうち、術後薬物療法のためにホルモン受容体あるいはHER-2の検索が行われた患者数

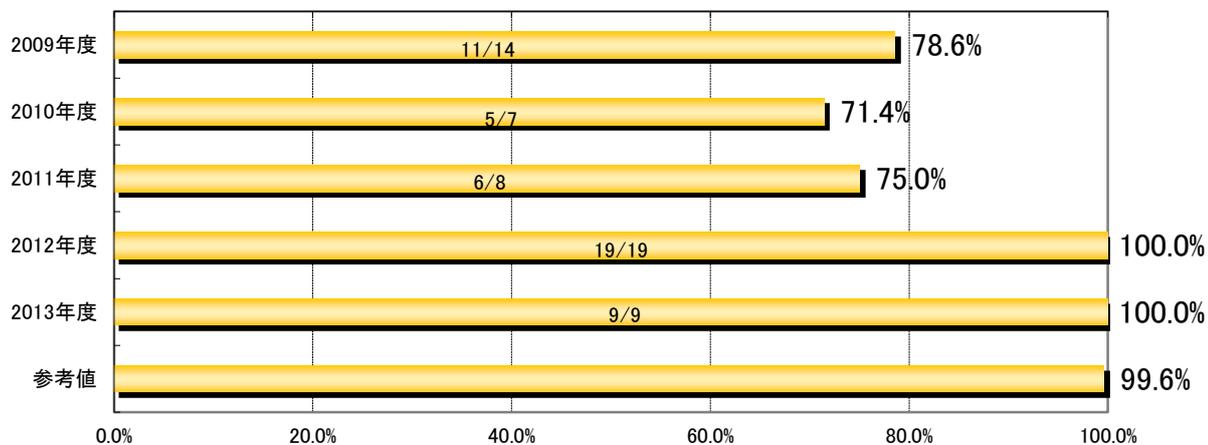
【分母】 乳房の悪性腫瘍(初発)で手術を施行した退院患者数

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2012 2012年度平均値

19. 肺がん手術患者に対する治療前の病理診断の施行率

治療開始前に組織もしくは細胞診断によって確定診断を行い、患者さんの状態や希望にあった治療法を検討することが重要になります。

19. 肺がん手術患者に対する治療前の病理診断の施行率



○算出式

【分子】 分母対象患者のうち手術前に組織または細胞診が施行された患者数

【分母】 肺の悪性腫瘍(初発)で手術を施行した退院患者数

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2012 2012年度平均値

○循環器疾患の指標

20. 急性心筋梗塞:平均在院日数

21. 急性心筋梗塞:受付から緊急PCIまでの平均所要時間(単位 分)

22. 急性心筋梗塞患者における入院当日若しくは翌日のアスピリン投与率

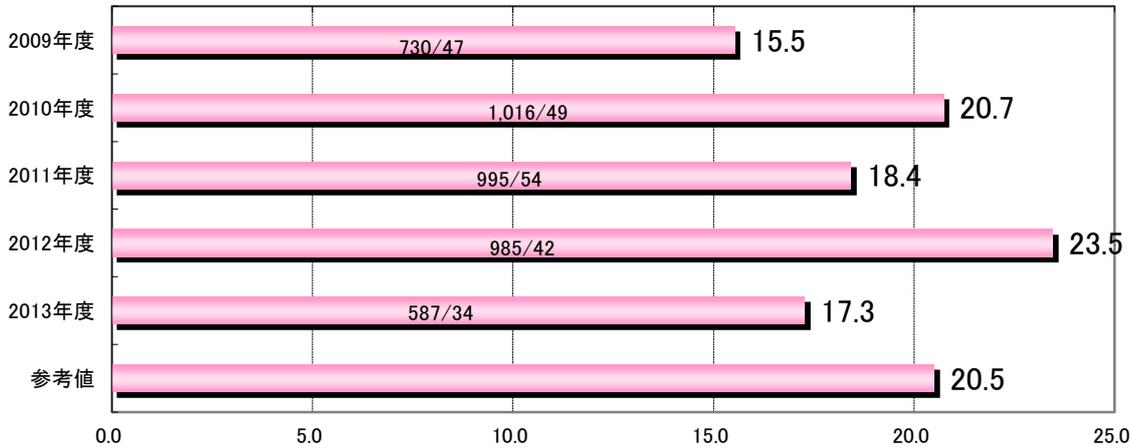
23. 急性心筋梗塞患者に対する退院時のスタチン処方率

24. PCI後の24時間以内の死亡率

20. 急性心筋梗塞:平均在院日数

急性心筋梗塞の治療後、どのくらいで日常生活に戻るかをみるための総合的な指標となります。

20. 急性心筋梗塞:平均在院日数



○算出式

【分子】 分母対象例の在院日数(退院日－入院日＋1)の総和

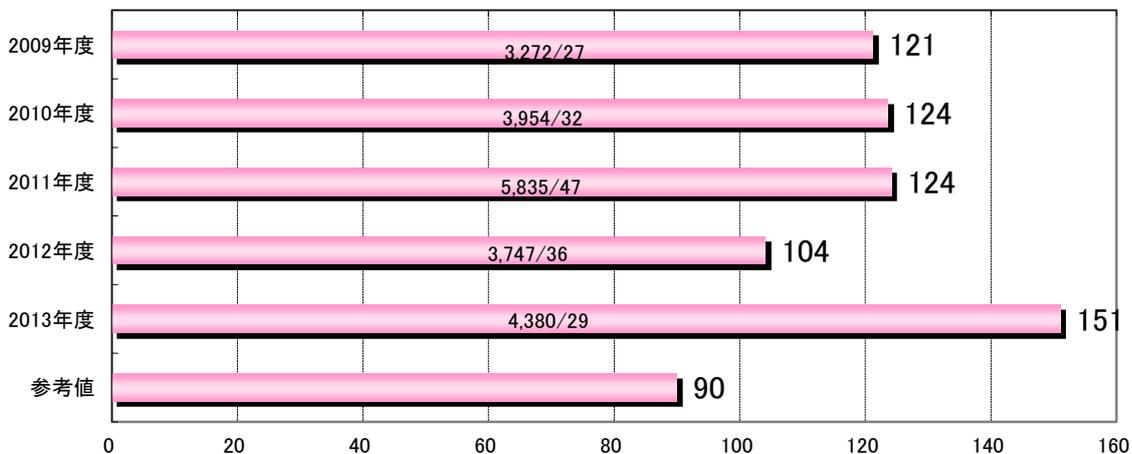
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「急性心筋梗塞」が主病名であり、3日以上入院期間があり、退院転帰が「死亡」以外であった患者数

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

21. 急性心筋梗塞:受付から緊急PCIまでの平均所要時間(単位 分)

急性心筋梗塞の治療には、発症後可能な限り早期に再灌流療法を行うことが生命予後の改善に重要です。病院到着(door)からPCI(balloon)までの時間は診断から検査、PCIの手技までが含まれており、このdoor-to-balloonの時間が90分以内であることという指標が、急性心筋梗塞の治療の質を評価する上での指標の一つとなります。

21. 急性心筋梗塞:受付から緊急PCIまでの平均所要時間(単位 分)



○算出式

【分子】 分母対象例の緊急PCIまでの所要時間の総和

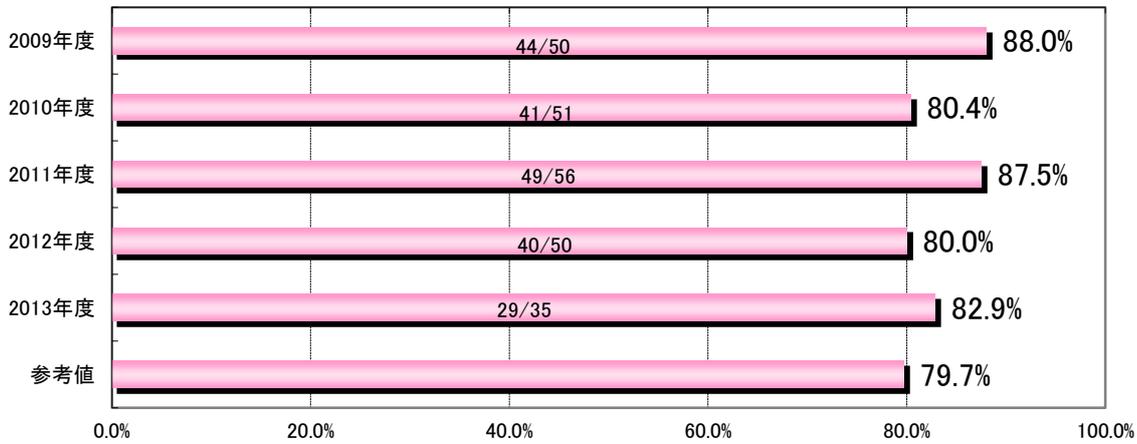
【分母】 集計期間内で主病名が「急性心筋梗塞」で外来受診から緊急PCIを実施した患者数

参考値 : 急性心筋梗塞(ST上昇型)の診療に関するガイドライン Door-to-balloon timeの目標値 90分以内

22. 急性心筋梗塞患者における入院当日若しくは翌日のアスピリン投与率

アスピリンは抗血小板作用があり、急性心筋梗塞の予後を改善するのに有効であることが多くの臨床研究で示されており、二次予防としての投与意義も確立されています。急性心筋梗塞では、再灌流が得られた後も二次予防を積極的に行わなければならない、標準的な治療が行われているかを図る指標として有用です。

22. 急性心筋梗塞患者における入院当日若しくは翌日のアスピリン投与率



○算出式

【分子】 分母対象例のうち、入院当日もしくは翌日の処方歴に「アスピリン」「パップアリン」等、アスピリン処方がされていた患者数

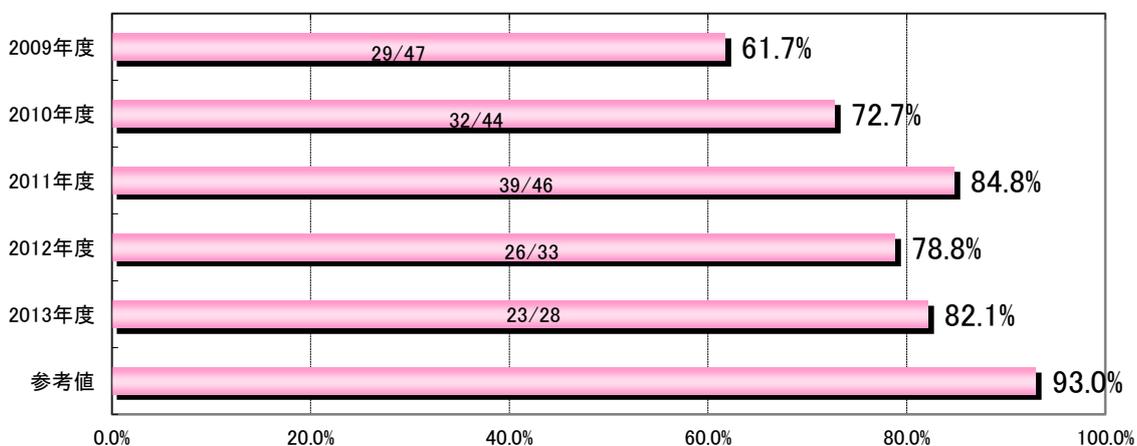
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「急性心筋梗塞」を主病名に入院した患者数

参考値：国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

23. 急性心筋梗塞患者に対する退院時のスタチン処方率

急性心筋梗塞の再発を予防するためには血中コレステロールを通常より低く保つ必要があり、スタチンには、血清コレステロールを低下させる作用があり、有効性が示されています。また、スタチンには、その他、抗炎症作用、血栓形成改善作用、抗酸化作用等といった多目的な効果を有することも示唆されています。

23. 急性心筋梗塞患者に対する退院時のスタチン処方率



○算出式

【分子】 分母のうち、退院時処方スタチンが処方された患者数

【分母】 急性心筋梗塞で入院し、高脂血症、高コレステロール血症を併存している退院患者数

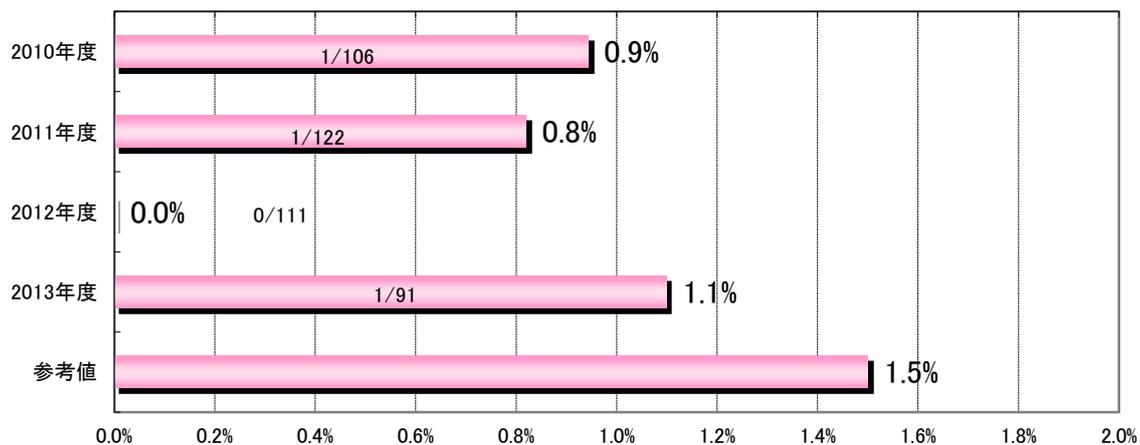
※分母除外 ～ 死亡患者、転院患者、疑い患者は除く

参考値：国立病院機構 臨床指標2012 2012年度平均値

24. PCI後の24時間以内の死亡率

虚血性心疾患に対する治療は薬物療法、カテーテルによる経皮的冠動脈形成術(PCI)、冠動脈バイパス術があります。PCIの成功率は、その施設の医療の質を評価する上で重要な指標と考えられ、PCIの24時間以内の入院死亡率は、医師の経験や技術、合併症発生時の対応などが反映され、PCIの質を評価する基本的な指標と考えられます。

24. PCI後の24時間以内の死亡率



○算出式

【分子】 分母対象患者のうち24時間以内に死亡した退院患者数

【分母】 PCI実施退院患者数

参考値 : AHRQ Quality Indicators 2008

○脳血管疾患の指標

25. 脳血管障害: 平均在院日数

26. 脳梗塞患者における早期リハビリ開始率

27. 脳梗塞患者における初期少量アスピリン投与率

28. 破裂脳動脈瘤患者に対する開頭による外科治療あるいは血管内治療の施行率

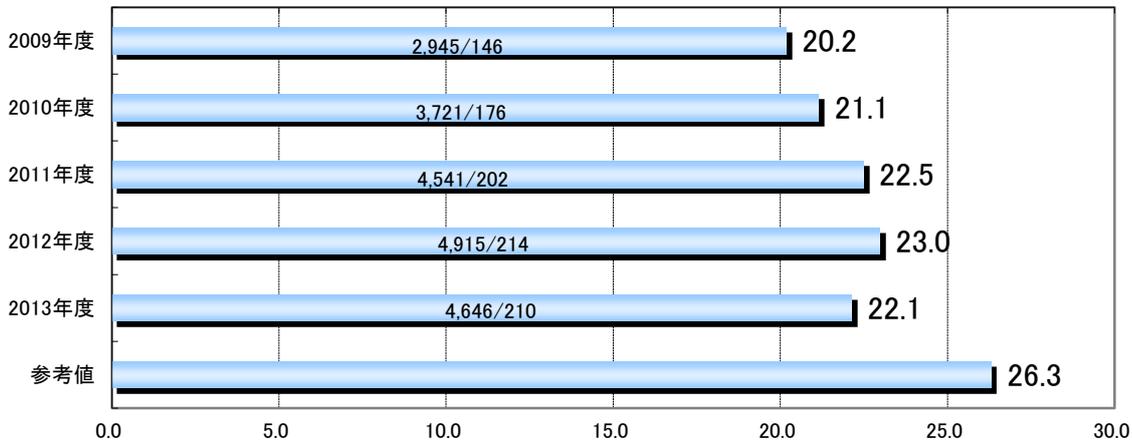
29. 急性期開頭術施行患者の死亡退院率

30. 救急搬送後、入院となった脳血管疾患患者における頭部CT検査施行までに要した時間(単位 分)

25. 脳血管障害:平均在院日数

脳血管障害に対する適切な医療やケアの介入がなされているかどうかの総合的な指標と言えます。また、診療において地域の各医療機関(リハビリテーション専門病院・長期療養施設等)との連携が重要となり、各施設との連携が取れているかを示す指標の一つとなります。

25. 脳血管障害:平均在院日数



○算出式

【分子】 分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

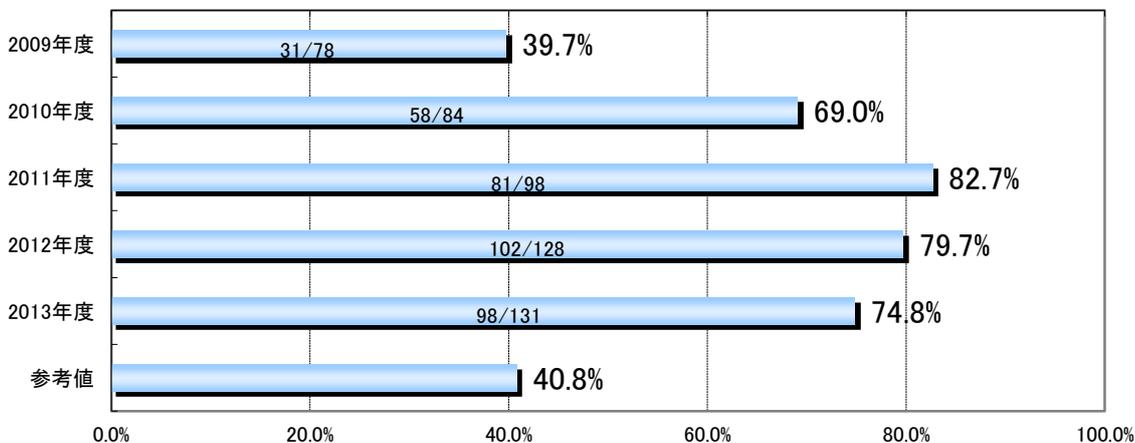
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、退院時主病名が「脳卒中」「脳梗塞」「脳塞栓」「脳出血」「一過性脳虚血発作」であり、入院後に頭部CTスキャンもしくは頭部MRI検査がなされている50歳以上の患者で、かつ3日以上90日以下の入院がある者の数(転帰が死亡である場合、病名に「くも膜下出血」がある場合は除外する)

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

26. 脳梗塞患者における早期リハビリ開始率

脳梗塞の後遺症によって、寝たきりになると、筋萎縮・筋力低下、関節拘縮等の症状があらわれる廃用症候群が起きます。廃用症候群を予防し、早期ADL向上と社会復帰を図るために、十分なリスク管理のもとに出来るだけ発症早期から積極的なリハビリテーションを行うことが強く勧められています。また、2005年の厚生労働省の「医療計画の見直し等に関する検討会」が提示した資料でもリハビリテーション実施率が指標として挙げられています。

26. 脳梗塞患者における早期リハビリ開始率



○算出式

【分子】 分母対象例のうち入院日から4日の時点でリハビリテーションが開始された患者数

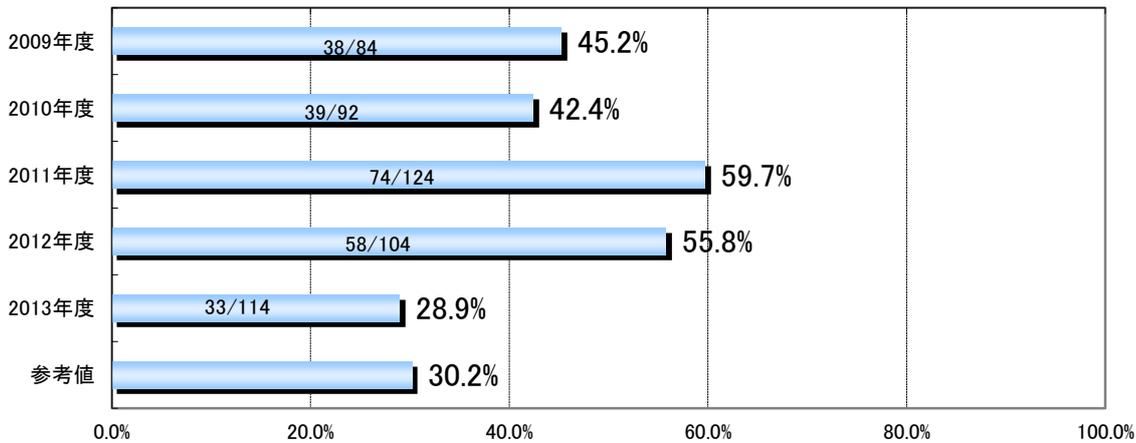
【分母】 集計期間内に退院した者のうち、退院時主病名が「脳梗塞」であり、入院後に頭部CTスキャンもしくは頭部MRI検査がなされている50歳以上の患者で、かつ3日以上90日以下の入院がある者の数(転帰が死亡である場合、病名に「くも膜下出血」がある場合は除外する)

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

27. 脳梗塞患者における初期少量アスピリン投与率

アスピリン経口投与は、発症早期(48時間以内)の脳梗塞患者の治療法として推奨されています。また、血栓を予防する薬として、脳梗塞の再発予防、予後改善効果は有意なものとなっています。

27. 脳梗塞患者における初期少量アスピリン投与率



○算出式

【分子】 分母対象例のうち入院当日もしくは翌日の処方歴に「アスピリン」「バップアリン」等、アスピリン処方されていた患者数

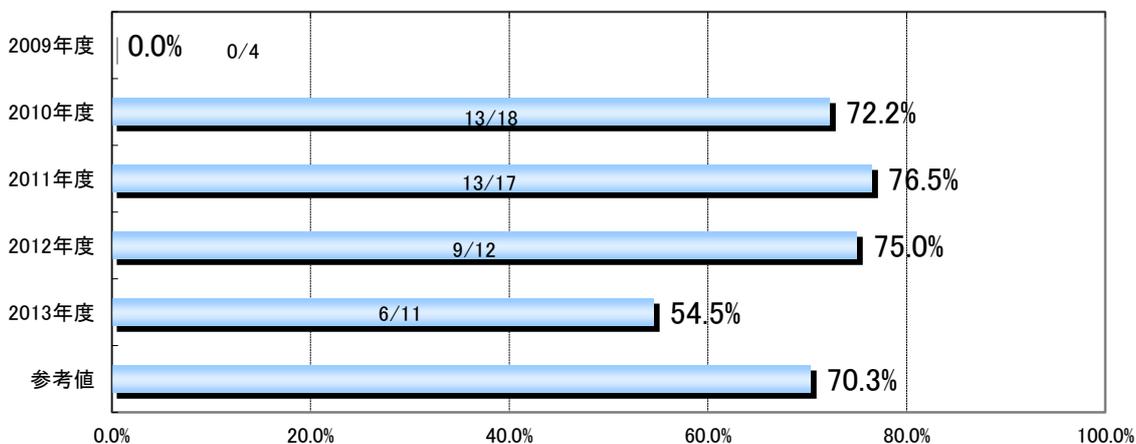
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、退院時主病名が「脳梗塞」「一過性脳虚血発作」であり、入院後に頭部CTスキャンもしくは頭部MRI検査がなされている50歳以上の患者のうち、入院期間が3日以上90日以下の患者数(転帰が死亡である場合、病名に「くも膜下出血」「脳出血」「脳塞栓」「心房細動」がある場合は除外する)

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

28. 破裂脳動脈瘤患者に対する開頭による外科治療あるいは血管内治療の施行率

くも膜下出血の主要原因として脳動脈瘤破裂があげられます。破裂脳動脈瘤を保存的に治療した場合、再出血することがあります。そのため、再出血の予防は重要となり、重症で改善できない場合を除き、予防的処置として、開頭による外科的手術あるいは開頭を要しない血管内治療を行うことが求められます。

28. 破裂脳動脈瘤患者に対する開頭による外科治療あるいは血管内治療の施行率



○算出式

【分子】 分母のうち、開頭による外科治療あるいは血管内治療を受けた患者

【分母】 急性くも膜下出血の退院患者数

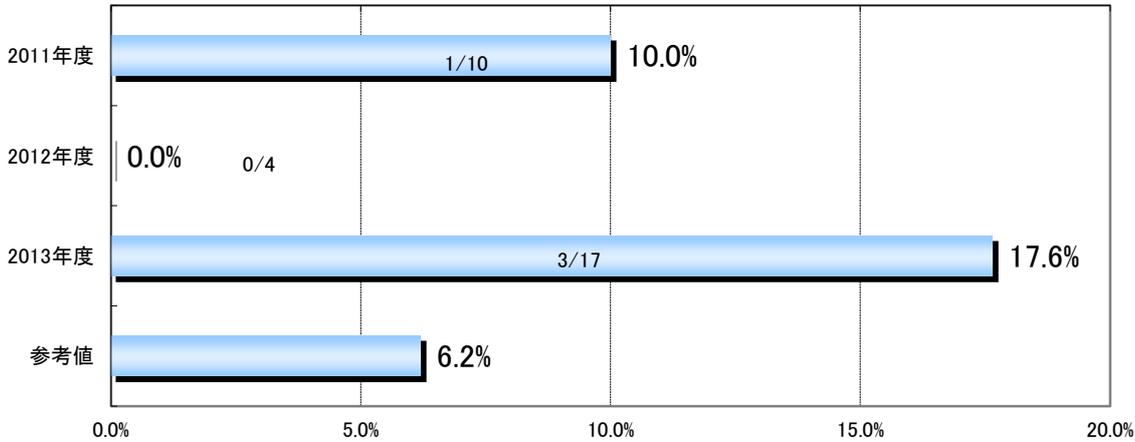
※分母除外 ~ 外傷性くも膜下出血は除く

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2012 2012年度平均値

29. 急性期開頭術施行患者の死亡退院率

急性期脳疾患患者が、救命を目的として緊急手術を施行する場合があります。緊急開頭術の原因となった疾患の病期や重症度によって予後に大きな差が現れます。急性期開頭術を受けた患者さんの死亡退院率を知ることにより、医療の質を評価・比較することができます。ただし、緊急開頭術の原因となった疾患の種類や重症度に死亡率は左右されるため、単純に比較することはできません。

29. 急性期開頭術施行患者の死亡退院率



○算出式

【分子】 急性期3日以内に開頭術を受け、死亡退院した患者数

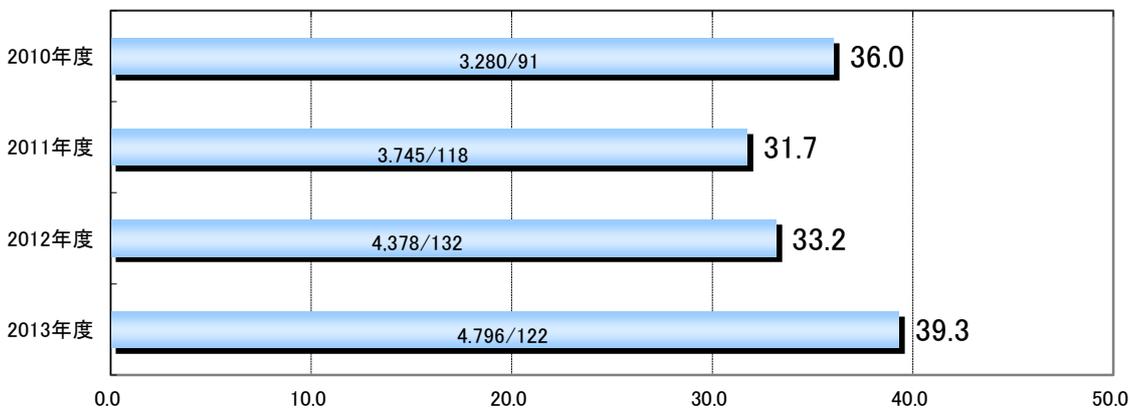
【分母】 緊急入院後3日以内に開頭術を受けた患者数

参考値 : AHRQ Quality Indicators 2008

30. 救急搬送後、入院となった脳血管疾患患者における頭部CT検査施行までに要した時間(単位 分)

脳血管疾患患者が救急搬送後、診断に必要な画像診断検査をどれだけ迅速に提供できたかは、診断とそれに続く治療開始の迅速性を示す大切な指標となります。

30. 救急搬送後、入院となった脳血管疾患患者における頭部CT検査施行までに要した時間 (単位 分)



○算出式

【分子】 分母対象例のうち、救急車到着時間から頭部CTを受けるまでの延べ時間

【分母】 救急搬送患者で脳神経外科、神経内科への入院患者のうち脳血管障害の診断名のある患者数

※分母除外 ~ 入院後24時間以内に実施していない患者、救急車到着時間が不明な患者は除く

○周産期、女性生殖器疾患手術の指標

31. 出産予定婦の帝王切開率

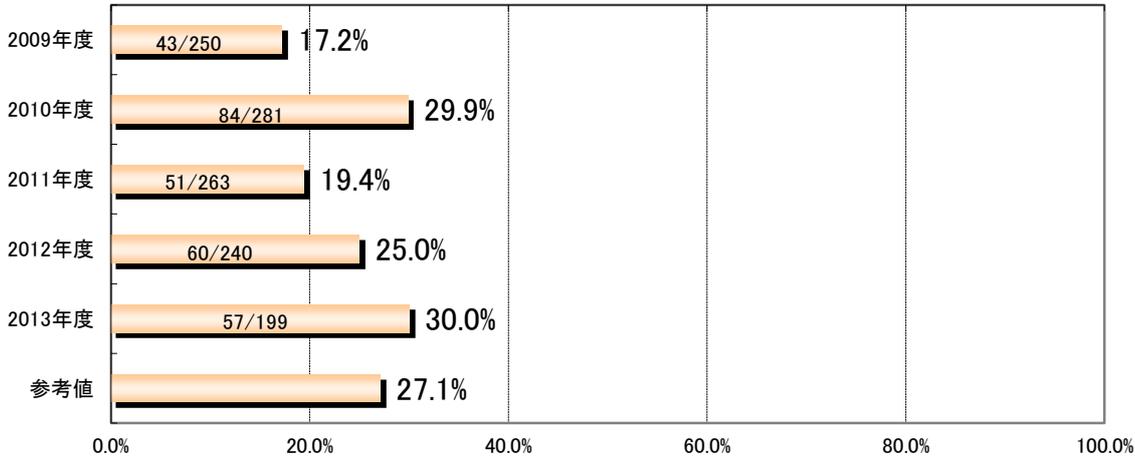
32. 単純子宮全摘術が施行された患者に対する輸血発生率

33. 卵巣腫瘍患者に対する腹腔鏡下手術の施行率

31. 出産予定婦の帝王切開率

出産の年齢が非常に幅広い現代において、合併症の頻度、不妊症の治療の頻度、また妊婦および医師の動向を含む社会的見識などの要因によって大きく影響されます。

31. 出産予定婦の帝王切開率



○算出式

【分子】 分母対象例のうち、帝王切開が実施された妊婦の数

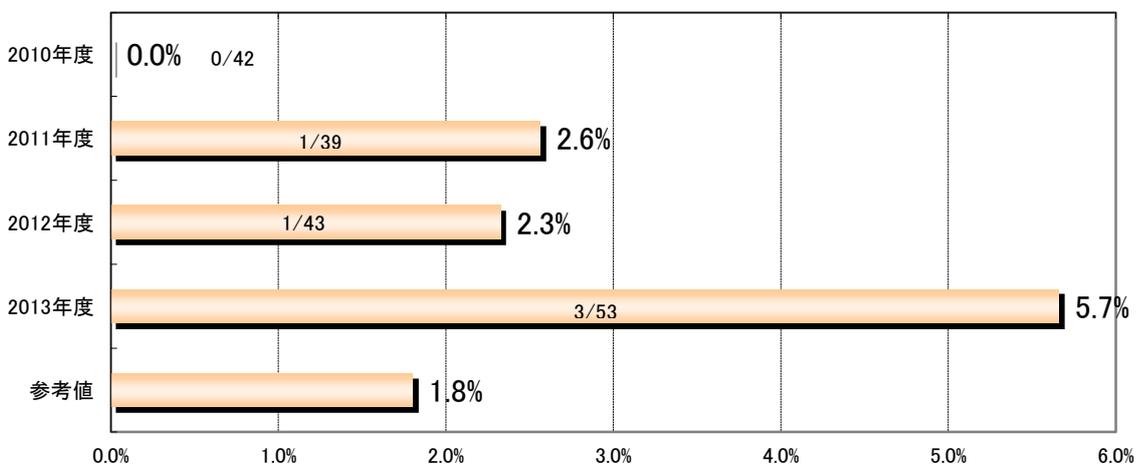
【分母】 36週以降43週未満で当該病院で出産を行った妊婦の数

参考値： 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

32. 単純子宮全摘術が施行された患者に対する輸血発生率

単純子宮全摘術は婦人科手術で最も頻度の高い手術であり、一般的に行われている治療です。輸血を必要としない出血量で手術を施行できる技術を備えることが求められます。

32. 単純子宮全摘術が施行された患者に対する輸血発生率



○算出式

【分子】 分母対象患者のうち輸血が発生した患者数

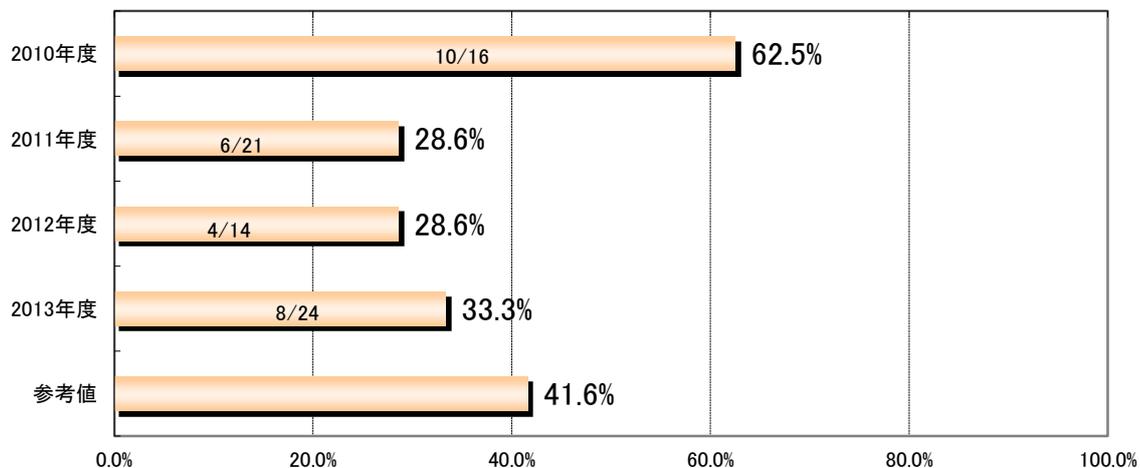
【分母】 単純子宮全摘術を施行した退院患者数

参考値： 国立病院機構臨床指標 2012 2012年度平均値

33. 卵巣腫瘍患者に対する腹腔鏡下手術の施行率

近年、卵巣腫瘍に対する腹腔鏡手術のニーズが増えており、治療法の選択肢の一つとして、病院で対応できているかどうかの評価になり得ます。腹腔鏡下手術には、開腹手術とは異なる手術技術と局所解剖の理解が不可欠であり、自病院の体制や手術チームの習熟度に応じた適応基準を個々に決定することが必要になります。

33. 卵巣腫瘍患者に対する腹腔鏡下手術の施行率



○算出式

【分子】 分母のうち、腹腔鏡下手術がされた患者数

【分母】 卵巣腫瘍で手術が施行された退院患者数

※分母除外 ~ 同日に複数の手術を施行された患者

参考値 : 国立病院機構臨床指標 2012 2012年度平均値

○整形外科手術の指標

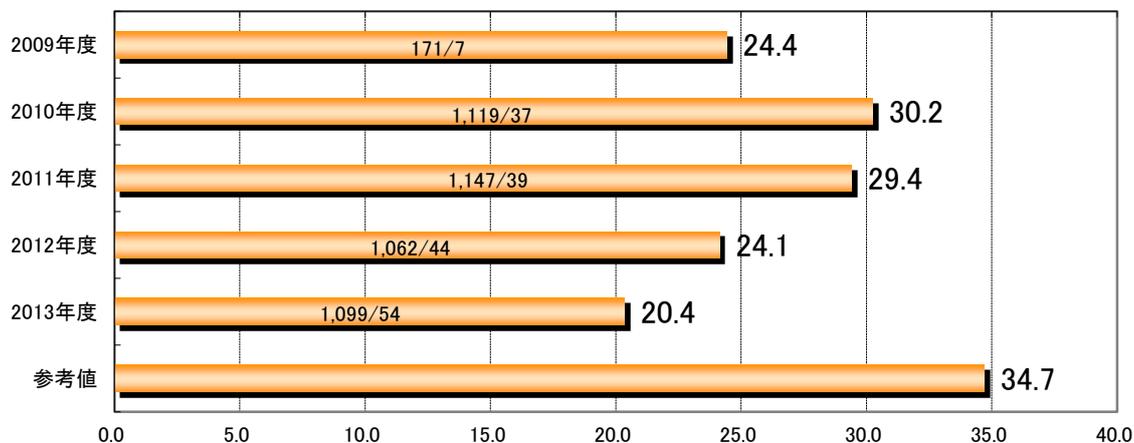
34. 大腿骨頭置換術:平均術後在院日数

35. 人工関節置換術, 人工骨頭挿入術における手術部位感染予防のための抗菌薬の3日以内および7日以内の中止率

34. 大腿骨頭置換術:平均術後在院日数

手術を行うことによりリハビリテーションを始めることができ、廃用症候群を予防することができます。さらに、早期にリハビリテーションを開始することが、早期退院につながります。また、大腿骨頭置換術症例に対して適切な医療やケアの介入がなされているかどうかの総合的な指標と言えます。

34. 大腿骨頭置換術:平均術後在院日数



○算出式

【分子】 分母対象例の術後在院日数(退院日-手術日)の総和

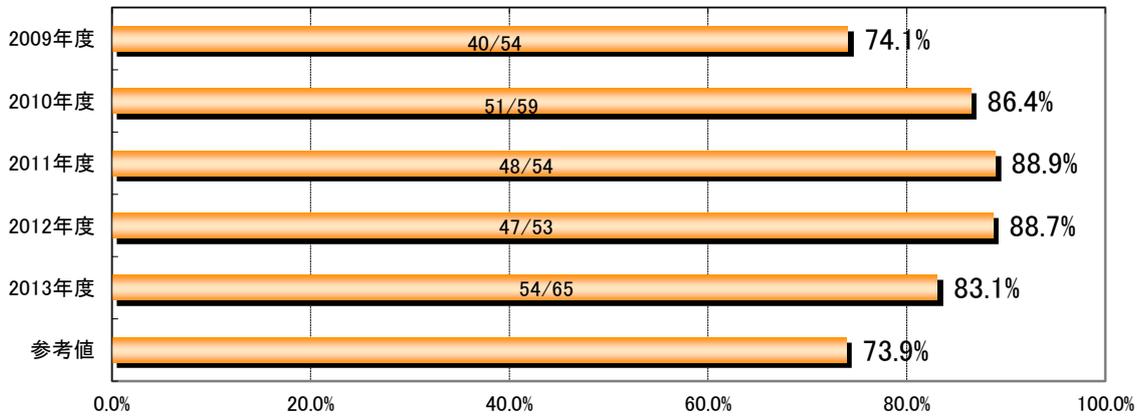
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、入院中に「大腿骨頭置換術」を受けた患者数

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

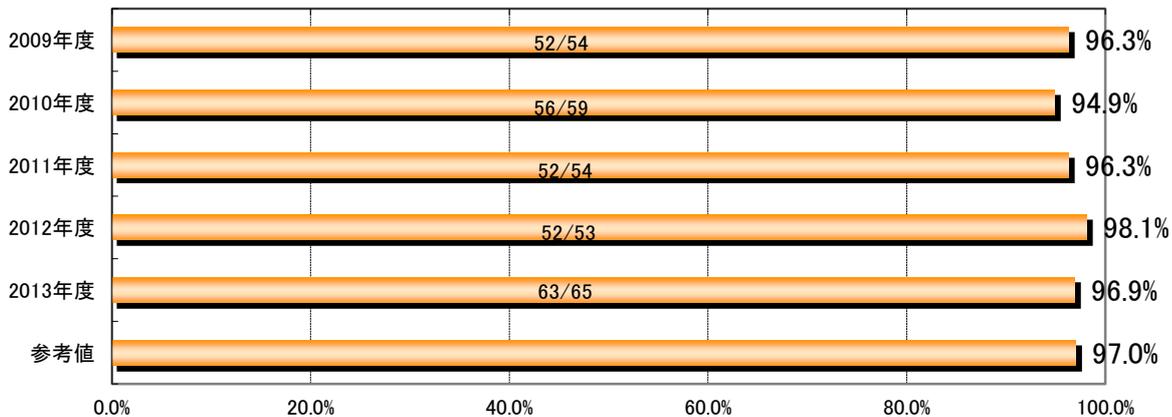
35. 人工関節置換術, 人工骨頭挿入術における手術部位感染予防のための抗菌薬の3日以内および7日以内の中止率

抗菌薬の予防的投与により、術後の感染症の発生率を低下させることができます。但し、長期間にわたる予防的抗菌薬投与は、抗菌薬耐性菌による感染症の誘発につながります。そのため、抗菌薬の投与期間として、術後3日以内に中止することが求められています。

34. 人工関節置換術, 人工骨頭挿入術における手術部位感染予防のための抗菌薬の3日以内の中止率



34. 人工関節置換術, 人工骨頭挿入術における手術部位感染予防のための抗菌薬の7日以内の中止率



○算出式

【分子】 分母のうち、手術日以降に抗菌薬が予防的に投与され、手術当日から数えて3日以内および7日以内の投与が中止された患者数

【分母】 「人工関節置換術」、「人工関節再置換術」、「人工骨頭挿入術」のいずれかを施行した退院患者数

※分母除外

- ①入院期間中に複数の手術を受けた患者(同日複数の手術を受けた患者は除く)
- ②術後3日以内に退院した患者

※分子除外

予防的抗菌薬を他の抗菌薬に切り替え、継続的に投与された患者は除く(例: 予防抗菌薬～セファメジン → 術後3日後にメロペンを切り替え継続投与)

参考値 : 平成24年度医療の質の評価・公表等推進事業における臨床評価指標(3日以内)

参考値 : 平成23年度医療の質の評価・公表等推進事業における臨床評価指標(7日以内)

○眼科手術の指標

36-1. 白内障手術:平均在院日数(両眼手術の場合)

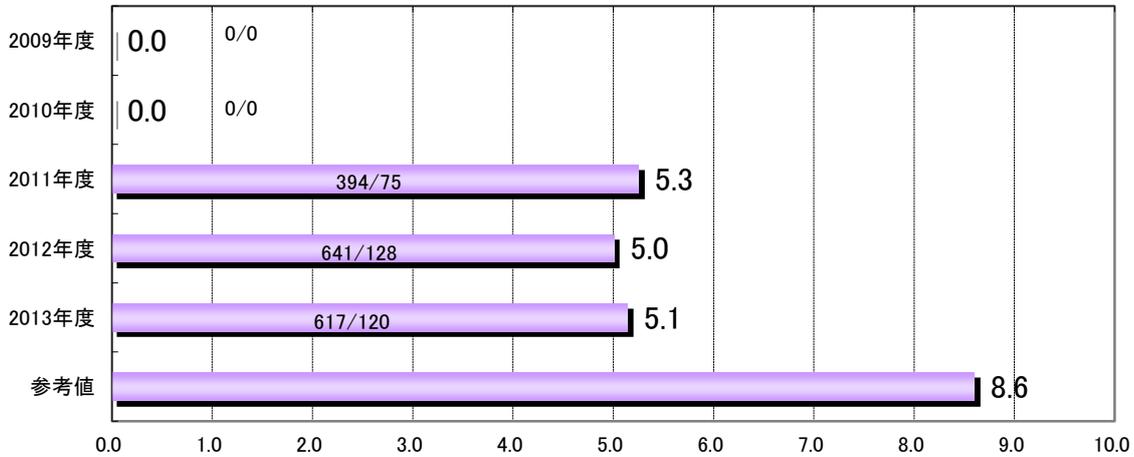
36-2. 白内障手術:平均在院日数(片眼手術の場合)

36. 白内障手術:平均在院日数

DPC/PDPS制度の導入等により平均在院日数の短縮化が進む中、白内障は影響をうけた疾患の一つであると考えます。平均在院日数は、診療内容の統一化により効率の良い医療を提供できるかをみる指標として有用です。

36-1. 白内障手術:平均在院日数(両眼手術の場合)

36-1. 白内障手術:平均在院日数(両眼手術の場合)



○算出式

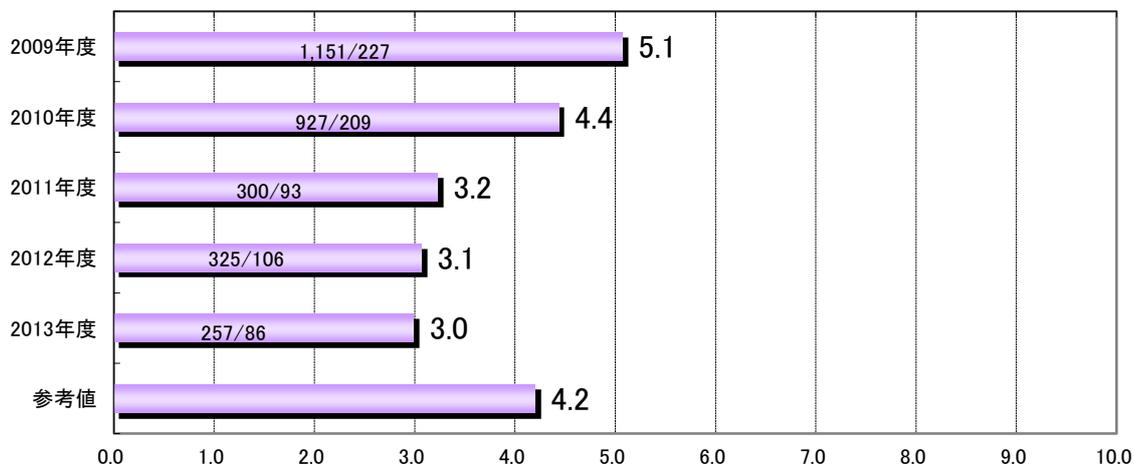
【分子】 分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

【分母】 集計期間内に「白内障」を主病名として白内障手術を行い、2日以上期間入院した患者数(両眼白内障手術の場合)

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

36-2. 白内障手術:平均在院日数(片眼手術の場合)

36-2. 白内障手術:平均在院日数(片眼手術の場合)



○算出式

【分子】 分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

【分母】 集計期間内に「白内障」を主病名として白内障手術を行い、2日以上期間入院した患者数(片眼白内障手術の場合)

参考値 : 国立病院機構 臨床指標2009 2008年度平均値

○消化器疾患の指標

37. 胆嚢摘出術中の腹腔鏡下手術の割合

38. 急性膵炎患者に対する早期(入院2日以内)のCT施行率

37. 胆嚢摘出術中の腹腔鏡下手術の割合

胆嚢摘出術には、主に開腹による胆嚢摘出術と腹腔鏡下胆嚢摘出術の2種類があり、急性胆嚢炎では、重い局所合併症を伴っている場合、あるいは胆嚢捻転症、化膿性胆嚢炎等では、全身状態の管理を十分にしながら開腹手術を行うことが推奨されています。腹腔鏡下手術は、開腹手術と比較して、死亡率、合併症、手術時間について差がありませんが、入院期間と術後の回復期間が短くなります。このため、特に合併症を伴わない胆嚢結石、胆嚢炎に対する腹腔鏡下手術の割合が高い方が、医療の質が高いと言えます。

37. 胆嚢摘出術中の腹腔鏡下手術の割合



○算出式

【分子】 分母対象例のうち腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した患者数

【分母】 胆嚢摘出術を施行した退院患者数

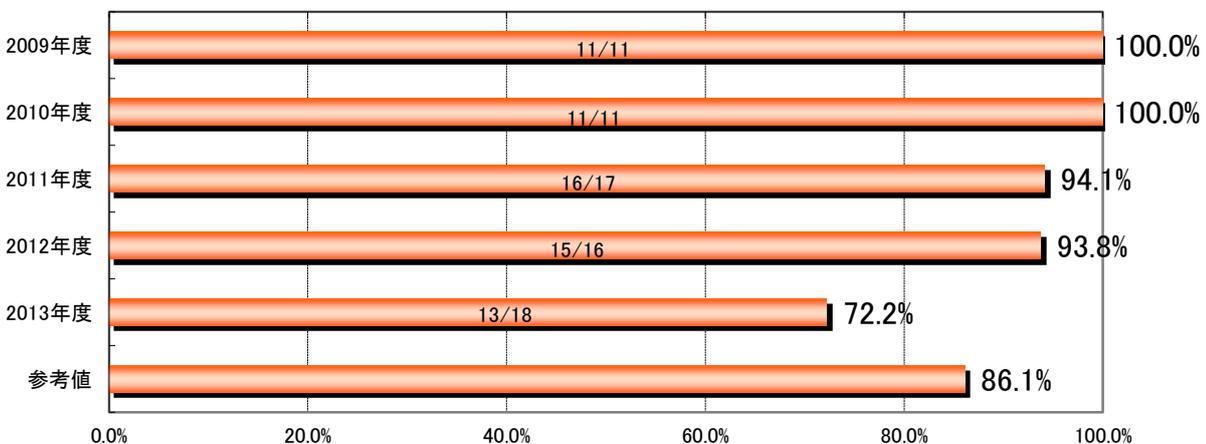
※分母除外～複数手術を同時に受けた患者、手術時病名に胆嚢結石または胆嚢炎を含まない患者

参考値 : AHRQ Quality Indicators 2008

38. 急性膵炎患者に対する早期(入院2日以内)のCT施行率

CTは、急性膵炎の診断と腹腔内合併症の診断に最も有用な画像診断であり、胃十二指腸潰瘍の穿孔など他の腹腔内疾患との鑑別や、腹腔内臓器の併存疾患や膵炎に伴う合併症の診断が可能となります。また、早期の適切な対応へとつなげることができます。

38. 急性膵炎患者に対する早期(入院2日以内)のCT施行率



○算出式

【分子】 分母のうち、当該入院の入院日から数えて2日以内にCTが施行された患者数

【分母】 急性膵炎の退院患者数

※分母除外

- ①在院日数が2日以内の患者
- ②当該入院期間中に内視鏡下胆管・膵管造影法を行った患者

参考値 : 国立病院機構臨床指標 2012 2012年度平均値

○呼吸器疾患の指標

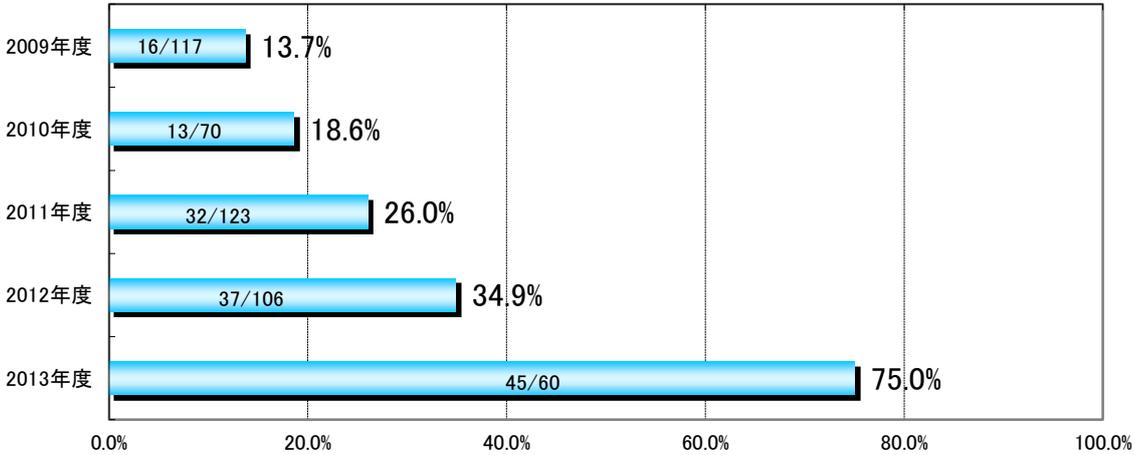
-
- 39-1. 肺炎:65歳以上患者割合(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)
-
- 39-2. 肺炎:65歳以上患者割合(嚥下性肺炎 J69)
-
- 39-3. 肺炎:65歳以上患者割合(間質性肺炎 J84)
-
- 39-4. 肺炎:65歳以上患者割合(その他の肺炎 J18)
-
- 40-1. 肺炎:平均在院日数(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)
-
- 40-2. 肺炎:平均在院日数(嚥下性肺炎 J69)
-
- 40-3. 肺炎:平均在院日数(間質性肺炎 J84)
-
- 40-4. 肺炎:平均在院日数(その他の肺炎 J18)
-
- 41-1. 肺炎:死亡率(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)
-
- 41-2. 肺炎:死亡率(嚥下性肺炎 J69)
-
- 41-3. 肺炎:死亡率(間質性肺炎 J84)
-
- 41-4. 肺炎:死亡率(その他の肺炎 J18)
-
42. 気管支喘息患者に対する吸入ステロイド剤の投与率
-
43. 間質性肺炎患者に対する血清マーカー検査(KL-6, SP-D, SP-A)の施行率
-

39. 肺炎:65歳以上患者割合

肺炎は季節をとわず罹患する疾患であり、また、罹患率が高いうえ、死亡率も高い重要な疾患です。肺炎の生命予後という点から重症度分類をする指標の一つとして年齢があります。

39-1. 肺炎:65歳以上患者割合(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)

39-1. 肺炎:65歳以上患者割合(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)



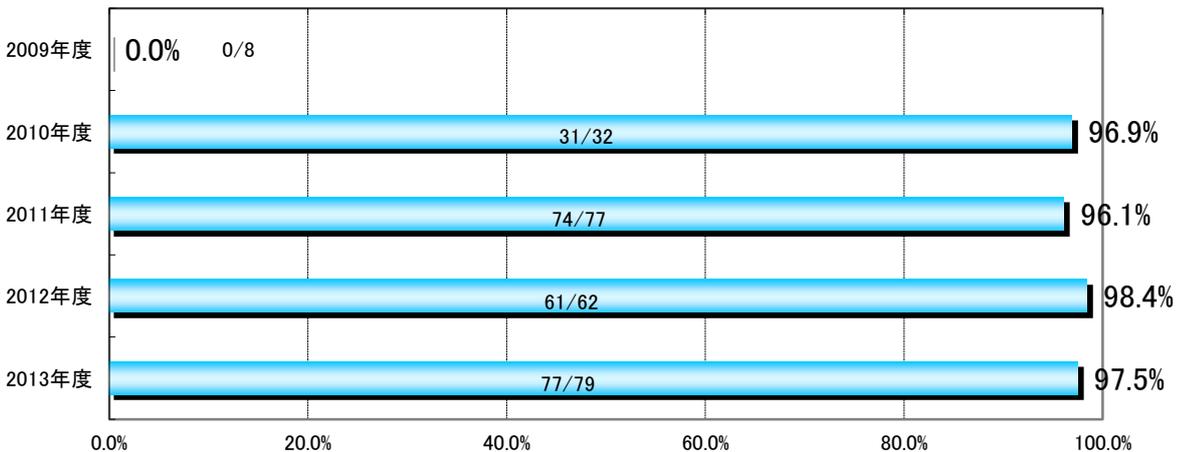
○算出式

【分子】 分母対象例のうち65歳以上の患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17」が主病名である患者数

39-2. 肺炎:65歳以上患者割合(嚥下性肺炎 J69)

39-2. 肺炎:65歳以上患者割合(嚥下性肺炎 J69)

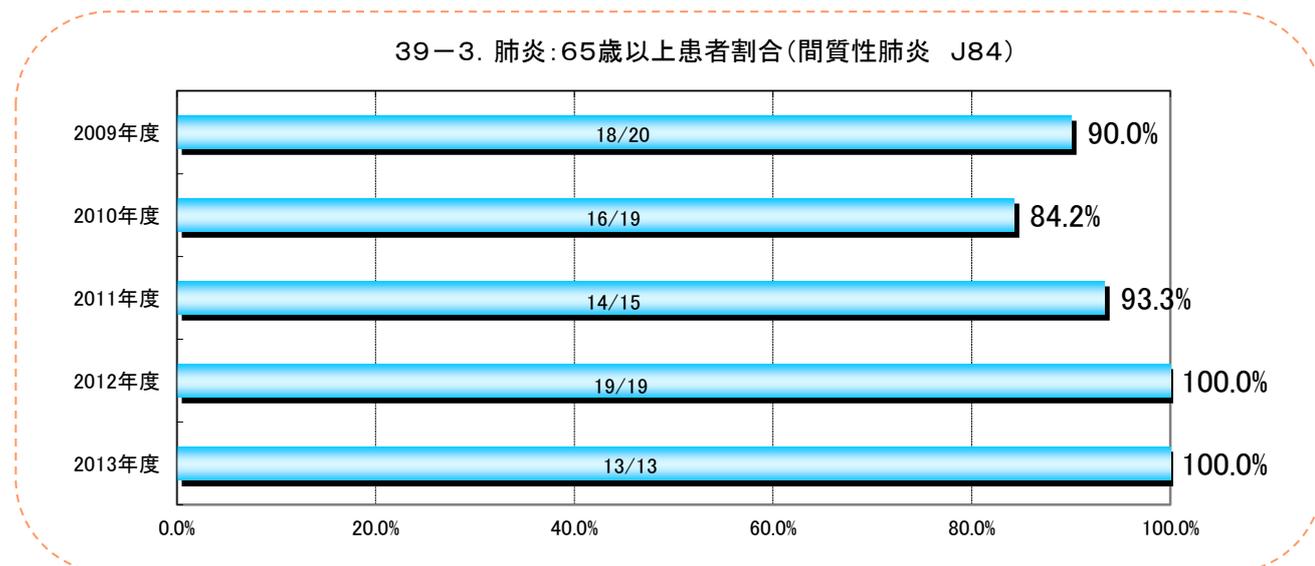


○算出式

【分子】 分母対象例のうち65歳以上の患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「嚥下性肺炎 J69」が主病名である患者数

39-3. 肺炎:65歳以上患者割合(間質性肺炎 J84)

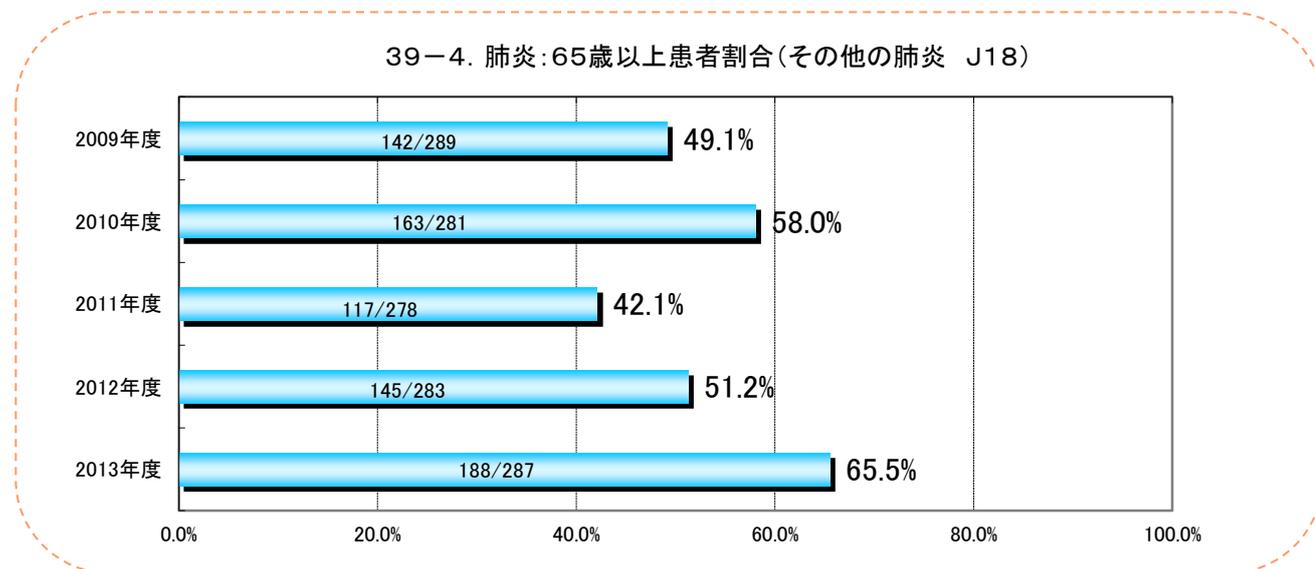


○算出式

【分子】 分母対象例のうち65歳以上の患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「間質性肺炎 J84」が主病名である患者数

39-4. 肺炎:65歳以上患者割合(その他の肺炎 J18)



○算出式

【分子】 分母対象例のうち65歳以上の患者数

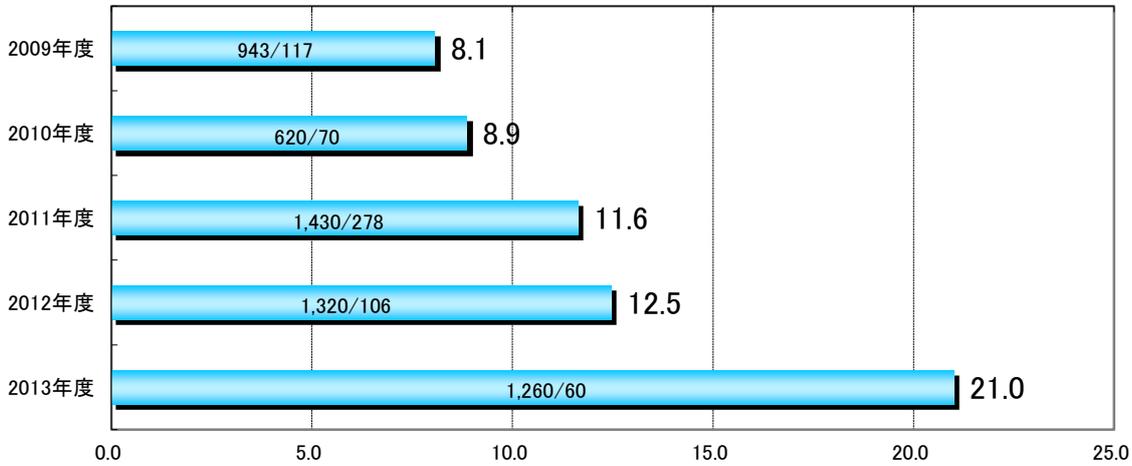
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「その他の肺炎 J18」が主病名である患者数

40. 肺炎:平均在院日数

肺炎に対して適切な医療やケアの介入がなされているかどうかの総合的な指標と言えます。平均在院日数を経時的に追跡することで、肺炎診療の質評価と改善をはかります。

40-1. 肺炎:平均在院日数(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)

40-1. 肺炎:平均在院日数(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)

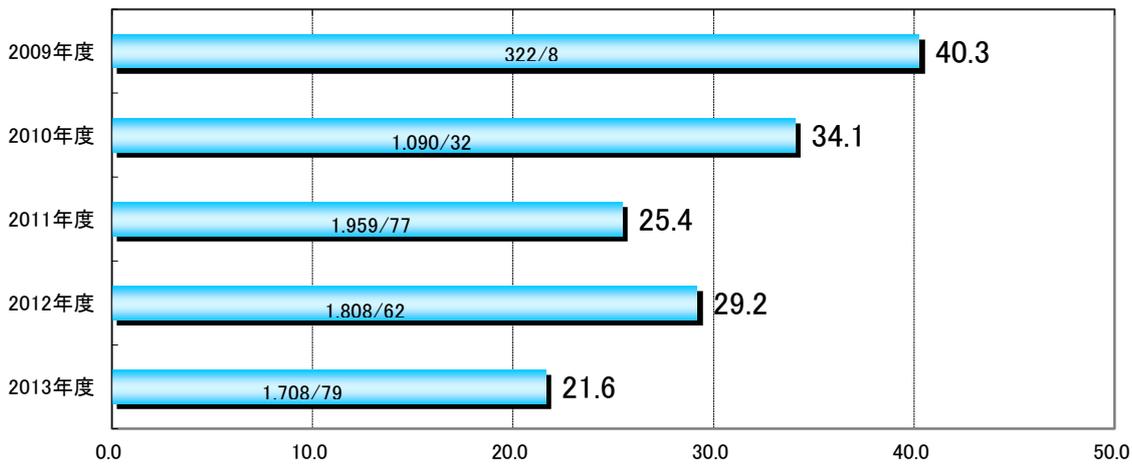


【分子】 分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17」が主病名である患者数

40-2. 肺炎:平均在院日数(嚥下性肺炎 J69)

40-2. 肺炎:平均在院日数(嚥下性肺炎 J69)

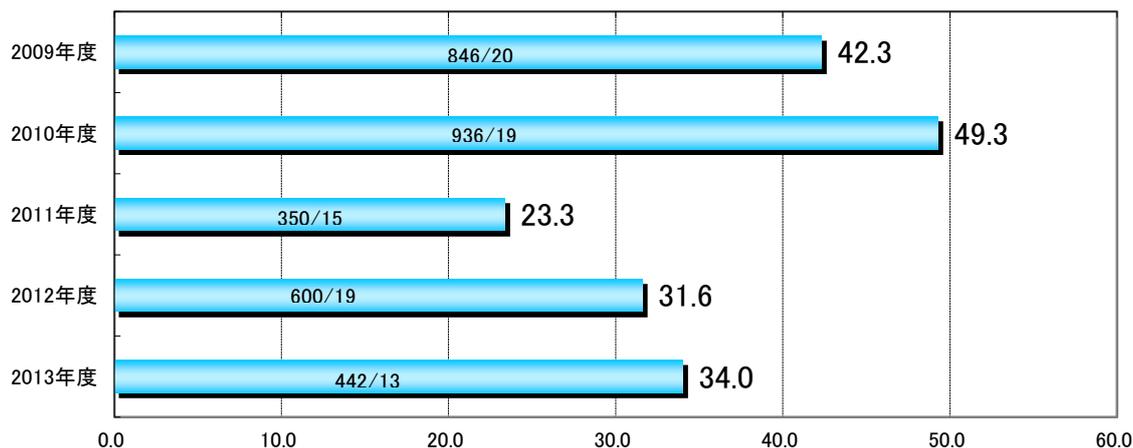


【分子】 分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「嚥下性肺炎 J69」が主病名である患者数

40-3. 肺炎:平均在院日数(間質性肺炎 J84)

40-3. 肺炎:平均在院日数(間質性肺炎 J84)

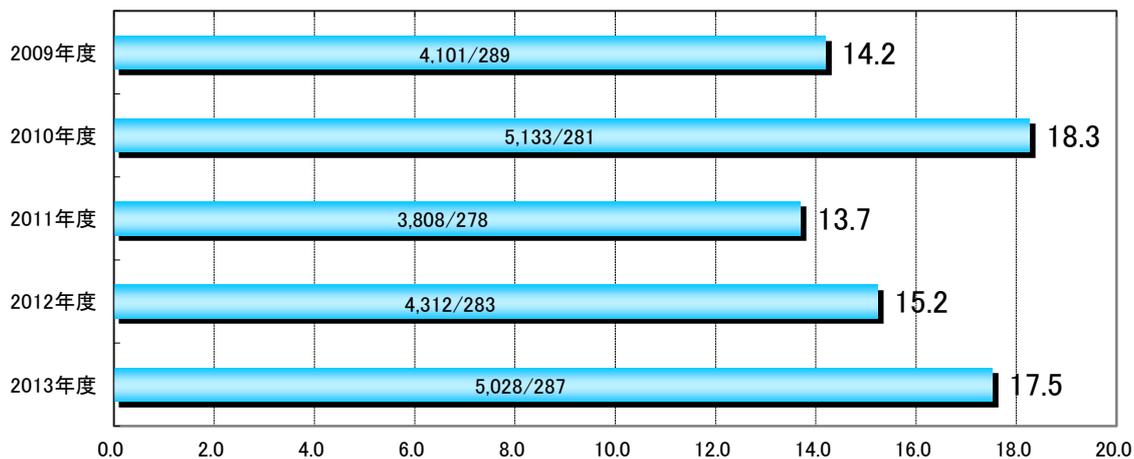


【分子】 分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「間質性肺炎 J84」が主病名である患者数

40-4. 肺炎:平均在院日数(その他の肺炎 J18)

39-4. 肺炎:平均在院日数(その他の肺炎 J18)



【分子】 分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

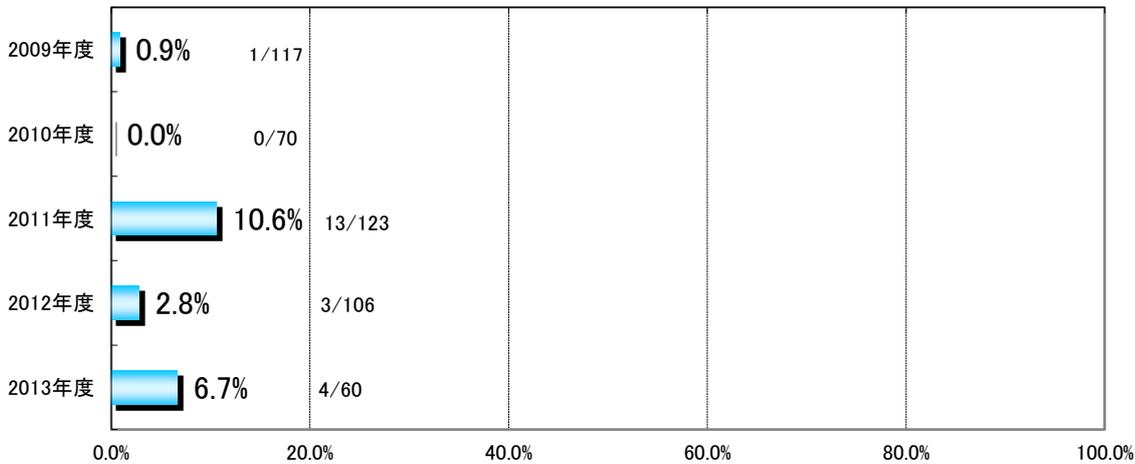
【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「その他の肺炎 J18」が主病名である患者数

41. 肺炎:死亡率

常に死因の上位にある肺炎は、治療のタイミングを逃すと死に至るため、適切な診断と治療が重要になってきます。病院で診療することの多い疾患であり、肺炎による死亡率は、その病院が治療している肺炎患者の重症度を示しており、内科的治療の効果を計る指標となります

41-1. 肺炎:死亡率(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)

41-1. 肺炎:死亡率(ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17)

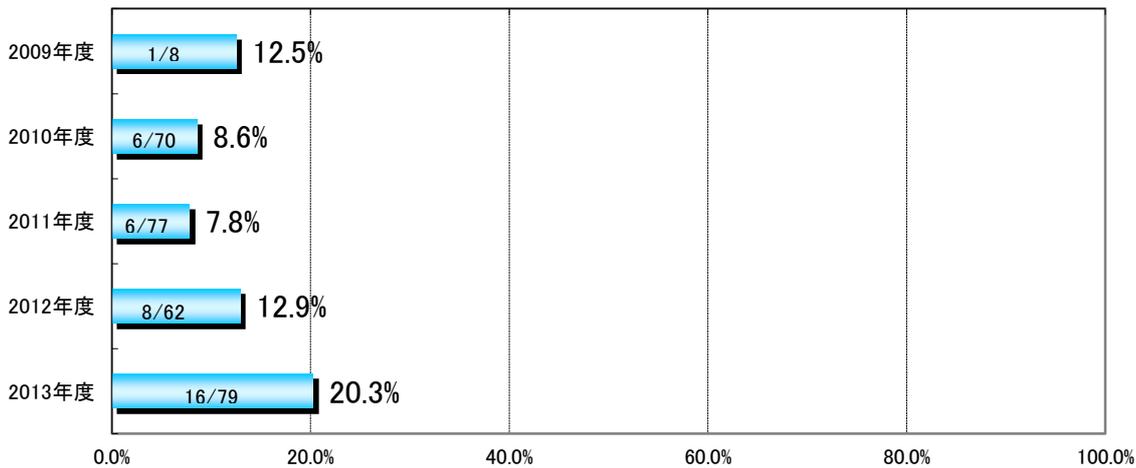


【分子】 分母対象例のうち、退院時の転帰が「死亡」であった患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「ウイルス、細菌等による肺炎 J10~J17」が主病名である患者数

41-2. 肺炎:死亡率(嚥下性肺炎 J69)

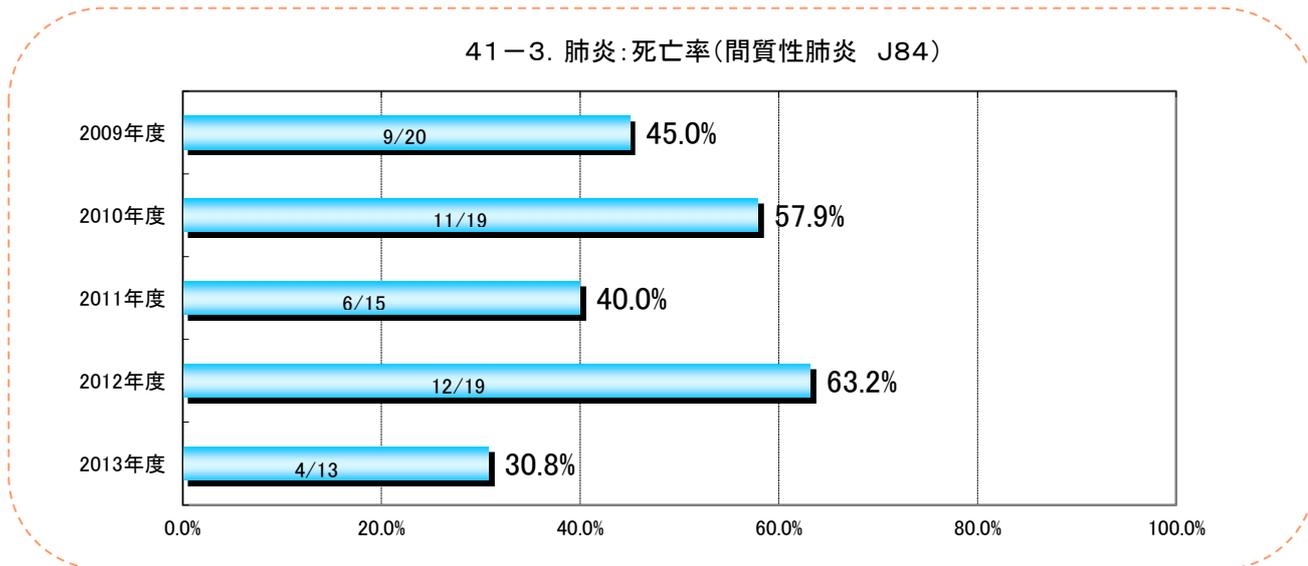
41-2. 肺炎:死亡率(嚥下性肺炎 J69)



【分子】 分母対象例のうち、退院時の転帰が「死亡」であった患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「嚥下性肺炎 J69」が主病名である患者数

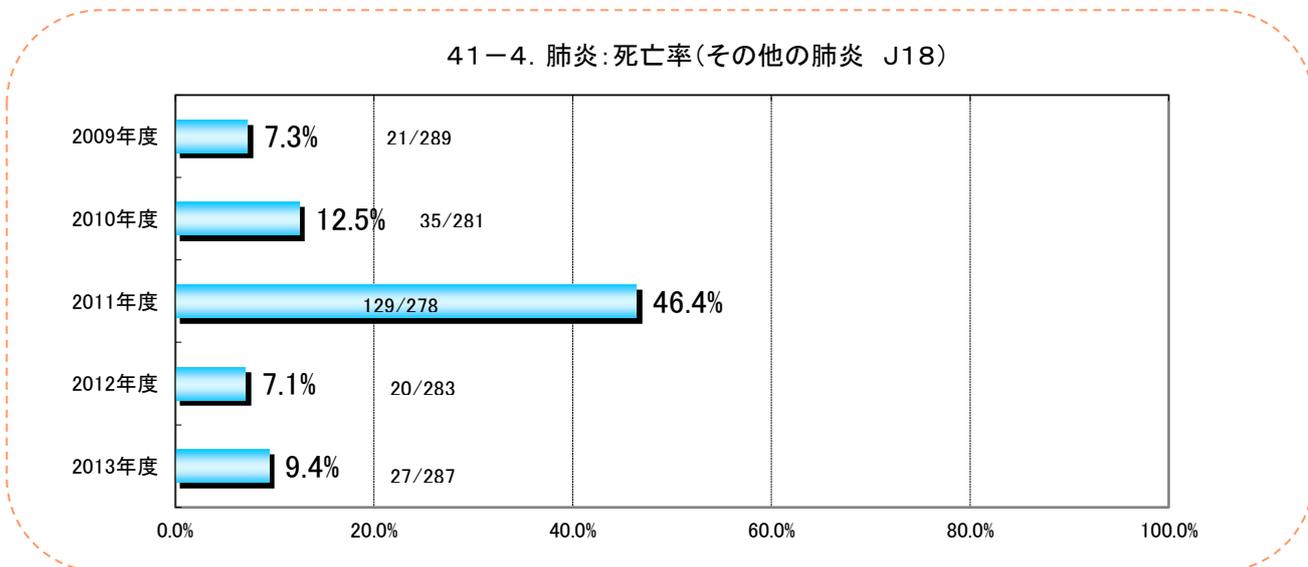
41-3. 肺炎:死亡率(間質性肺炎 J84)



【分子】 分母対象例のうち、退院時の転帰が「死亡」であった患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「間質性肺炎 J84」が主病名である患者数

41-4. 肺炎:死亡率(その他の肺炎 J18)



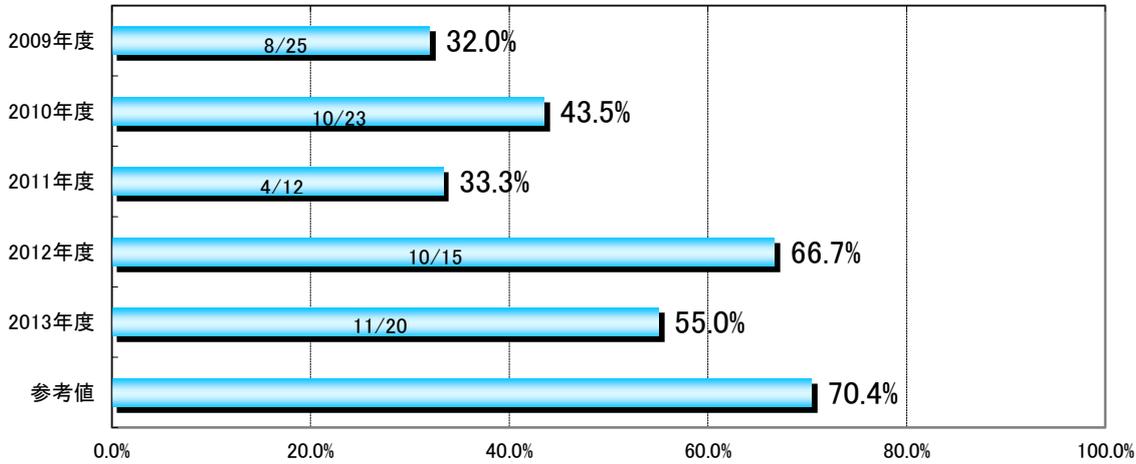
【分子】 分母対象例のうち、退院時の転帰が「死亡」であった患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者のうち、「その他の肺炎 J18」が主病名である患者数

42. 気管支喘息患者に対する吸入ステロイド剤の投与率

気管支喘息の入院治療では、全身性ステロイド治療とともに吸入ステロイド治療を開始することが重要になり、吸入ステロイド薬には、喘息症状を軽減、生活の質(QOL)および呼吸機能を改善する、気道の炎症を制御、急性増悪の回数を改善する等の効果があります。経口ステロイド剤を長期投与により糖尿病、骨粗鬆症などの全身性の副作用が発症するため、高用量の吸入ステロイド剤を使用することにより全身性の副作用を減らす効果があります。

42. 気管支喘息患者に対する吸入ステロイド剤の投与率



【分子】 分母のうち、当該入院期間中に吸入ステロイド剤が投与された患者数

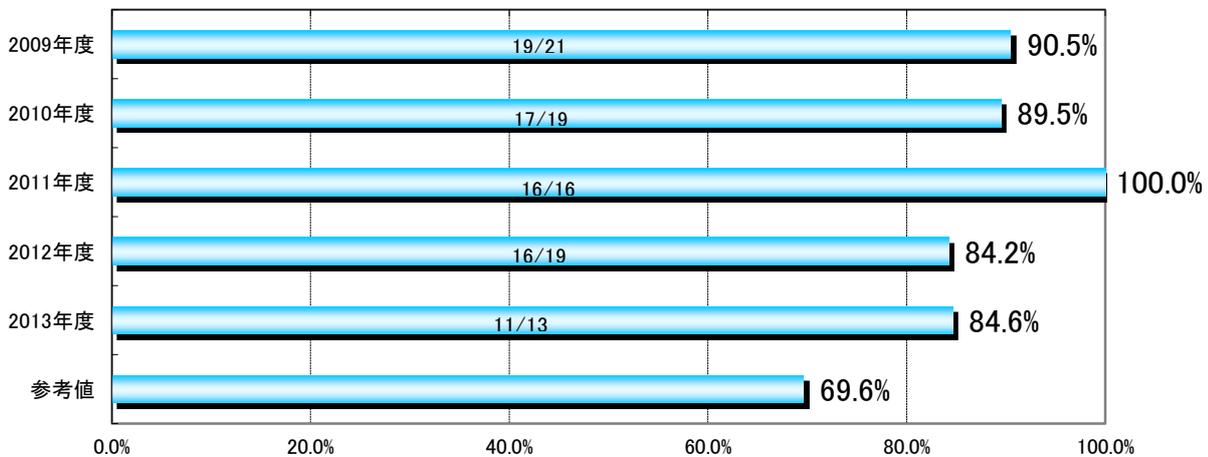
【分母】 気管支喘息の退院患者数

参考値 : 国立病院機構臨床指標 2012 2012年度平均値

43. 間質性肺炎患者に対する血清マーカー検査(KL-6, SP-D, SP-A)の施行率

間質性肺炎の血清マーカーにはKL-6、SP-D、SP-Aがあり、間質性肺炎の特徴である肺繊維化の病変の鑑別、病勢把握や治療経過の観察に有用とされています。

43. 間質性肺炎患者に対する血清マーカー検査(KL-6, SP-D, SP-A)の施行率



【分子】 分母のうち、当該入院期間中に間質性肺炎における検査(KL-6, SP-D, SP-A)が行われた患者数

【分母】 間質性肺炎の退院患者数

参考値 : 国立病院機構臨床指標 2012 2012年度平均値

○尿路系疾患、男性生殖器疾患手術の指標

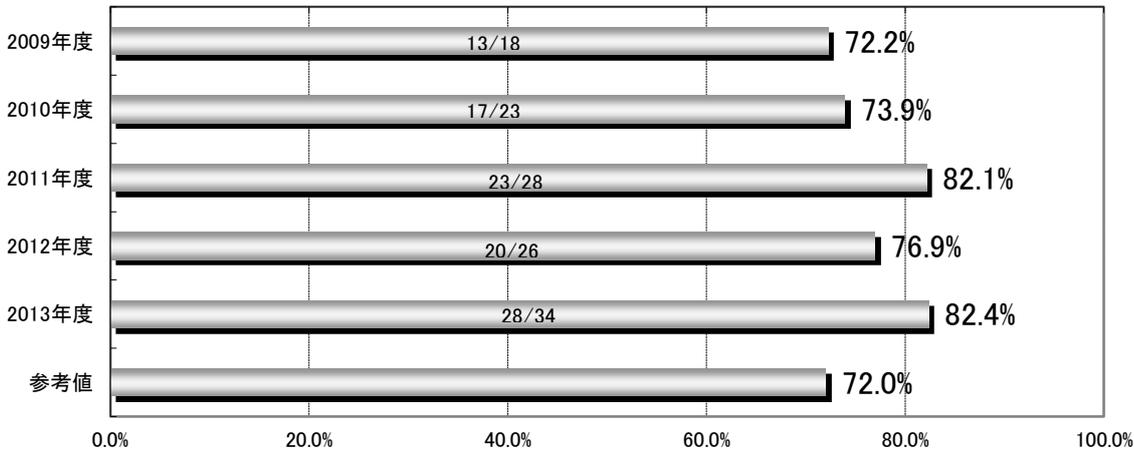
44. 急性腎盂腎炎患者に対する尿培養の施行率

45. 経尿道的前立腺切除術が施行された患者に対する術後3日以内の抗菌薬注射薬の中止率

44. 急性腎盂腎炎患者に対する尿培養の施行率

急性腎盂腎炎の治療では、適切な抗菌薬を選択し投与する必要があります。不適切な抗菌薬の選択は、悪化につながり、敗血症を招くこともあります。尿培養検査を行い、原因菌を同定し、適切な抗菌薬を選択して治療を行うことが求められています。

44. 急性腎盂腎炎患者に対する尿培養の施行率



【分子】 分母のうち、当該入院期間中に尿培養が施行された患者数

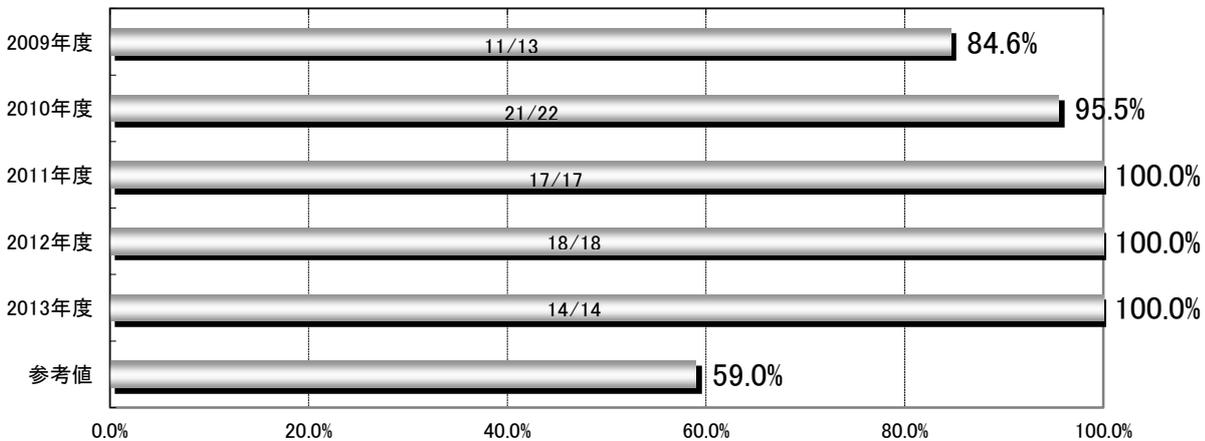
【分母】 注射抗菌薬が投与された急性腎盂腎炎の退院患者数

参考値 : 国立病院機構臨床指標 2012 2012年度平均値

45. 経尿道的前立腺切除術が施行された患者に対する術後3日以内の抗菌薬注射薬の中止率

長期にわたる予防的抗菌薬の投与は、多剤耐性菌の問題を引き起こします。また、多剤耐性菌による術後感染のリスクがあります。このため、少なくとも術後3日以内には予防的抗菌薬を中止することが求められます。

45. 経尿道的前立腺切除術が施行された患者に対する術後3日以内の抗菌薬注射薬の中止率



【分子】 分母のうち、当該入院の手術日から数えて3日以内に抗菌薬(経口・注射)が中止になった患者数

【分母】 経尿道的前立腺切除術が施行された退院患者数

参考値 : 国立病院機構臨床指標 2012 2012年度平均値

○胃ろう造設の指標

46-1. 胃ろう造設術: 転帰別平均術後在院日数(転院)

46-2. 胃ろう造設術: 転帰別平均術後在院日数(退院)

46-3. 胃ろう造設術: 転帰別平均術後在院日数(死亡)

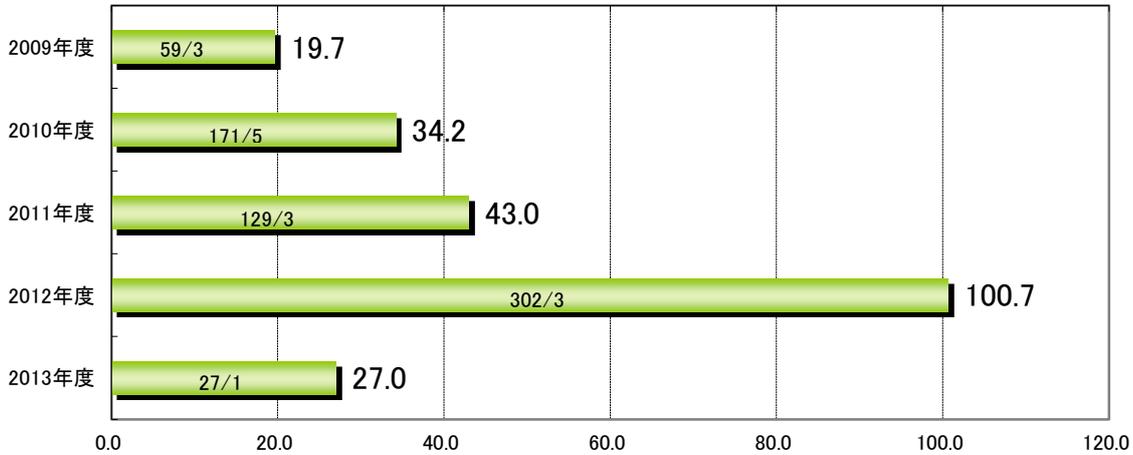
47. 転帰別胃ろう造設率

48. 年齢区分別胃ろう造設率

胃ろう造設する理由として、経口摂取が難しくなったり、誤嚥の危険等の要因があげられます。転帰別、年齢別等の様々な角度から見ることにより、メディカルソーシャルワーカー(MSW)の関り、社会的背景、患者の闘病生活の質などをみる指標の一つとなると考えます。

46-1. 胃ろう造設術：転帰別平均術後在院日数(転院)

46-1. 胃ろう造設術：転帰別平均術後在院日数(転院)

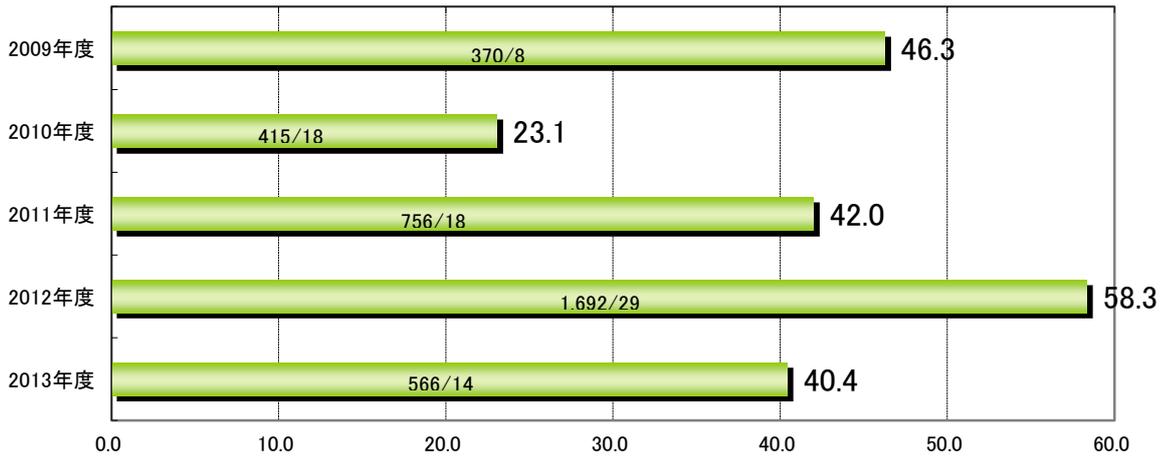


【分子】 分母対象例の術後在院日数(退院日-手術日)の総和

【分母】 集計期間内に退院した患者の中で胃ろう造設術を実施し、転帰が「転院」であった患者数

46-2. 胃ろう造設術：転帰別平均術後在院日数(退院)

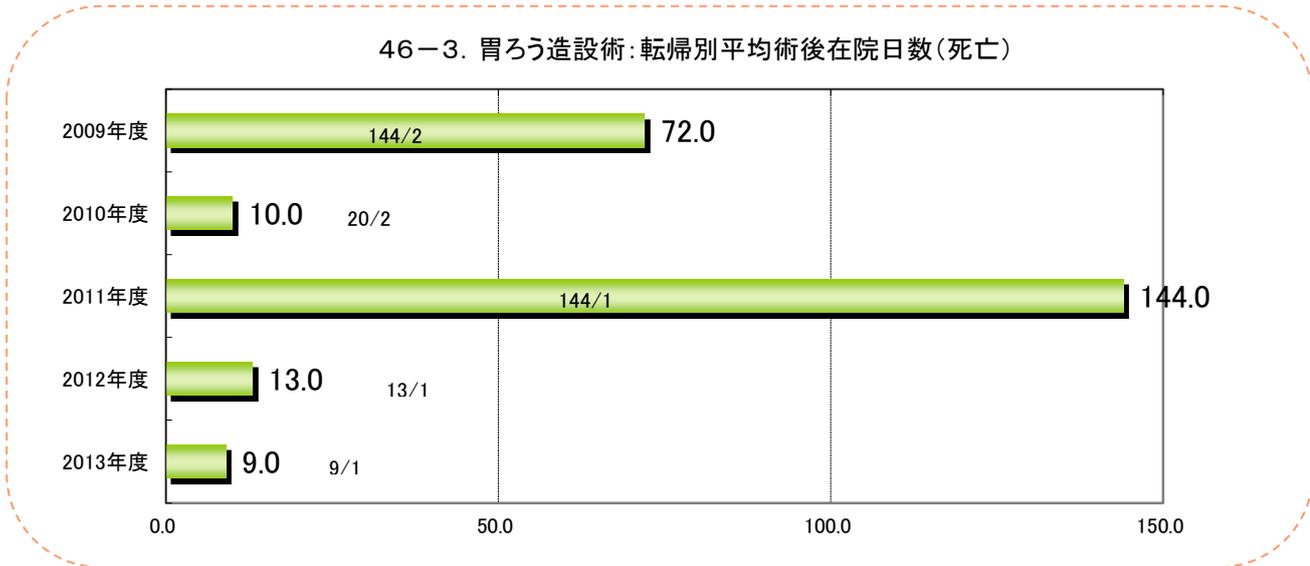
46-2. 胃ろう造設術：転帰別平均術後在院日数(退院)



【分子】 分母対象例の術後在院日数(退院日-手術日)の総和

【分母】 集計期間内に退院した患者の中で胃ろう造設術を実施し、転帰が「退院」であった患者数

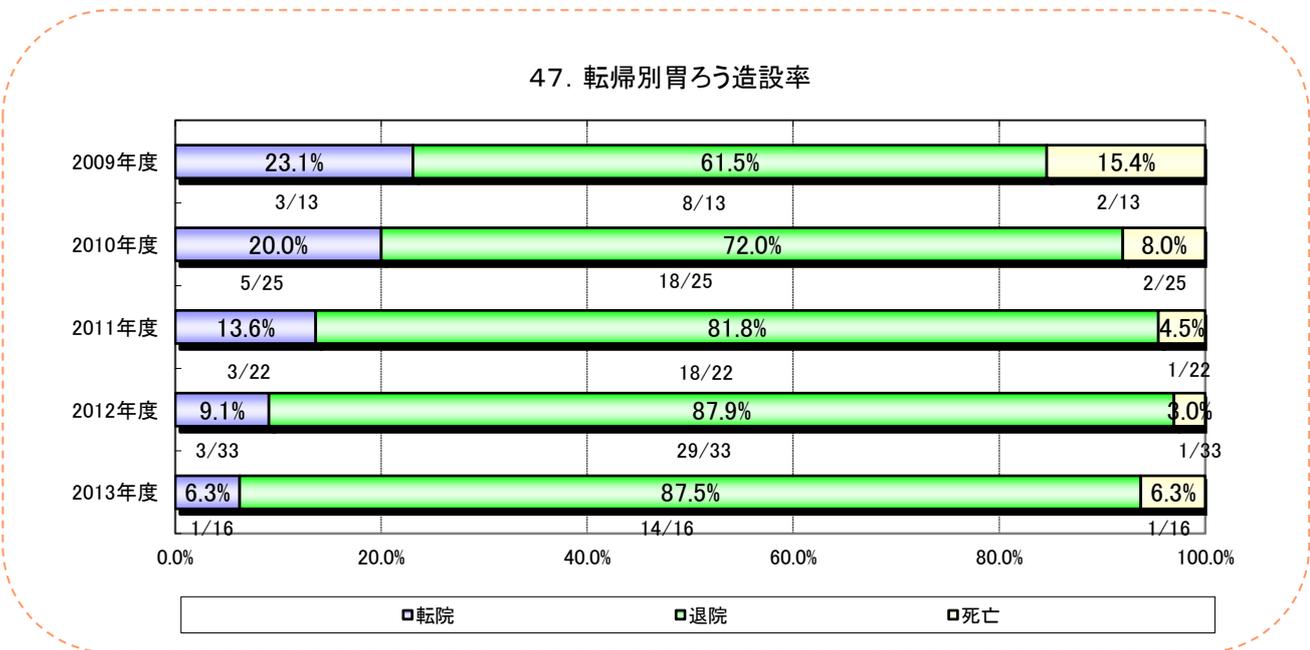
46-3. 胃ろう造設術: 転帰別平均術後在院日数(死亡)



【分子】 分母対象例の術後在院日数(退院日-手術日)の総和

【分母】 集計期間内に退院した患者の中で胃ろう造設術を実施し、転帰が「死亡」であった患者数

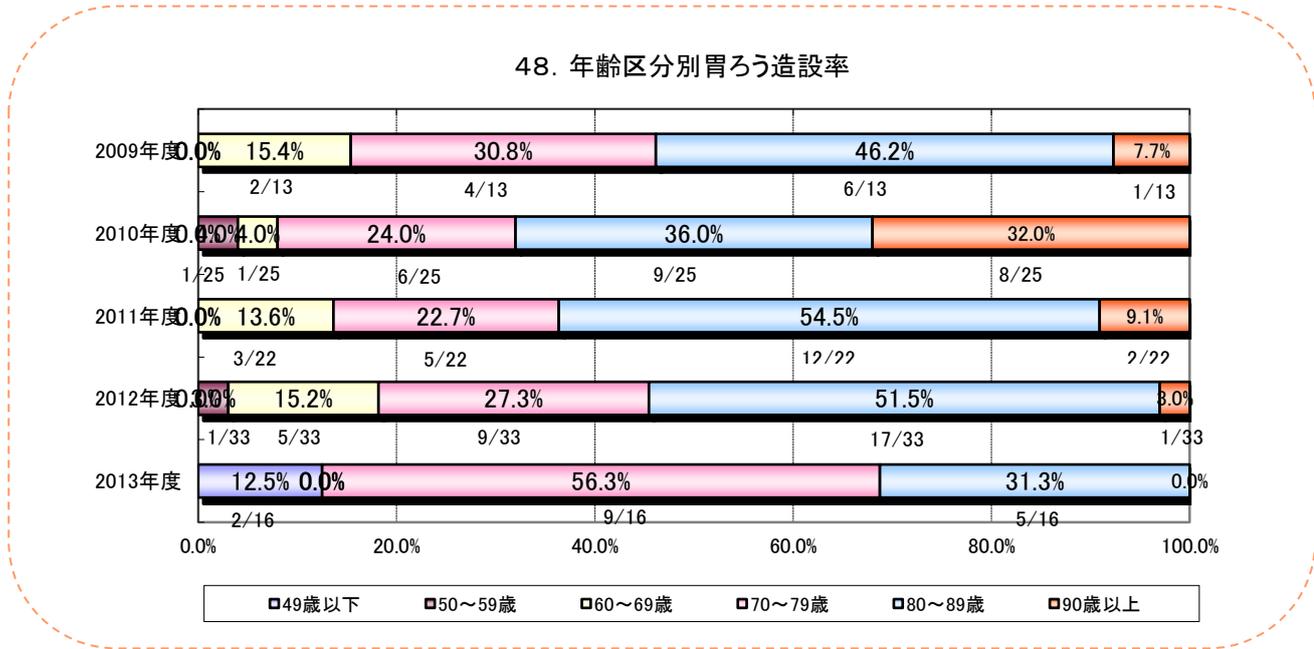
47. 転帰別胃ろう造設率



【分子】 分母対象例の転帰別退院患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者の中で胃ろう造設術を実施し退院した患者数

48. 年齢区分別胃ろう造設率



【分子】 分母対象例の年齢区分別退院患者数

【分母】 集計期間内に退院した患者の中で胃ろう造設術を実施し退院した患者数

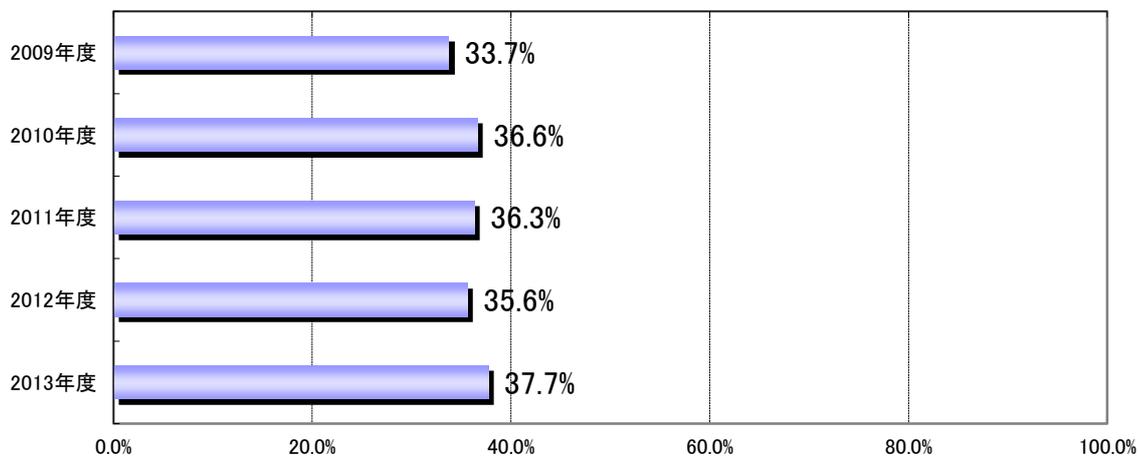
○地域連携に関する指標

49. 紹介率、逆紹介率

49. 紹介率、逆紹介率

紹介率、逆紹介率は地域の他の医療機関等との連携状況を反映していると言えます。また、地域完結型医療を目指す意味では、紹介率、逆紹介率の数値を指標とすることは重要です。

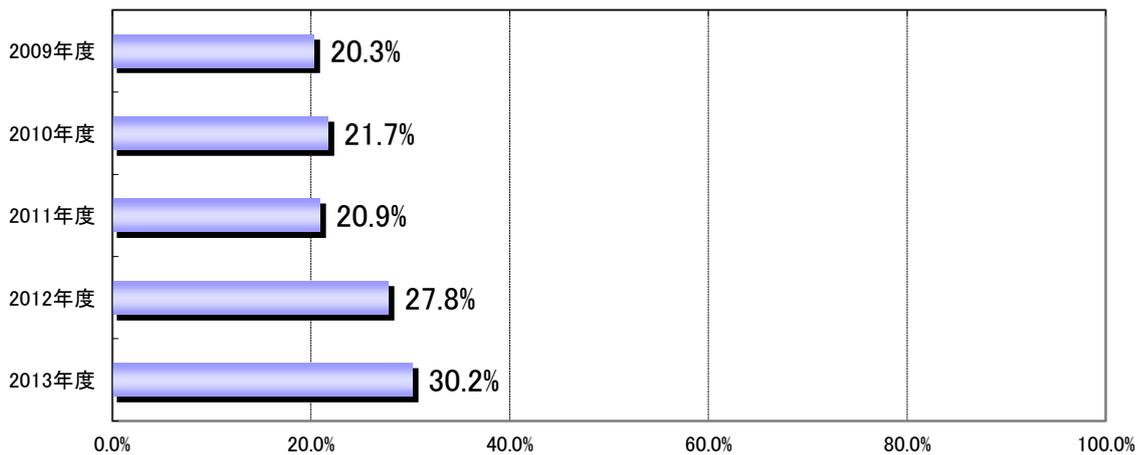
○紹介率



【分子】 集計期間内の文書による紹介患者数+集計期間内の救急車搬送による患者数

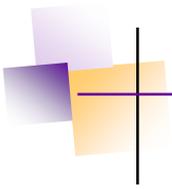
【分母】 集計期間内の初診患者数

○逆紹介率



【分子】 逆紹介患者数

【分母】 集計期間内の初診患者数



碧南市民病院 診療情報管理室
発行26年 9月1日